

ルーティングスイッチャー

Gen シリーズ

WEB 設定

取扱説明書

Ver 1.60

COSMIC

株式会社コスミックエンジニアリング

はじめにお読みください

ご使用上の注意

正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

お読みになった後は、必ず装置の近くの見やすいところに大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示内容が無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。



注意

この表示内容が無視して誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。



左の記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



左の記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



左の記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

万一、製品の不具合や停電などの外的要因で、映像や音声の品質に障害を与えた場合でも、本製品の修理以外の責はご容赦願います。



警告

■ 万一異常が発生したらそのまま使用しない

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がする。
このような時はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、
本製品を設置した業者またはメーカーに修理を依頼してください。



■ お客様による修理はしない

お客様による修理は危険ですので、絶対におやめください。



■ 不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



■ 内部に異物を入れない

通風口などから内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、
落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグを
コンセントから抜いてください。



■ 本体フレーム等の天板等を外したり、改造をしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。
機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。



■ ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電・故障の原因になります。



■ 雷が鳴り出したら電源プラグには触れない

火災・感電の原因になります。



■ 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む

ショートや発熱により、火災・感電の原因となります。



■ 電源ケーブルを傷つけない

電源ケーブルを加工しない。無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
電源ケーブルの上に機器本体や重いものを載せない。
電源ケーブルを熱器具に近づけない。火災・感電の原因となります。



■ 機器の上に水や薬品等が入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。



■ 機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグを本体
から抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。



⚠ 注意

■ 電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らずに必ずプラグをもって抜いてください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となります。



■ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。



■ 次のような場所には置かない

火災・感電の原因となります。
湿気やほこりの多いところ、直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ、油煙や湯気の当たるところ、水滴の発生しやすいところ。



■ 通風孔をふさがない

本体には内部の温度上昇を防ぐための通風孔が開けてありますので、次のような使い方はしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。あお向け、横倒、逆さまにする。風通しの悪い狭い場所に押し込む。



■ 重いものを載せない

機器の上に重いものや本体からはみ出る大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となります。



■ 機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

本体の電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。指定以外のケーブルを使用したり延長したりすると発熱し、火災・やけどの原因となります。



■ 長時間使用しないときは電源プラグを抜く

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



■ お手入れをする時は電源プラグを抜く

安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。



仕様および外観は改良のため、予告無く変更することがあります。
本機を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
海外仕様、DC入力仕様については弊社営業までお問い合わせ下さい。

目 次

内容

1. 概要.....	7
2. 特長.....	7
3. システム要件.....	7
3-1. 対応ブラウザ.....	7
3-2. ネットワーク環境.....	8
3-3. 起動.....	8
4. ビデオ系ルーターの設定.....	10
4-1. 入カステータス タブ.....	11
4-2. クロスポイント タブ.....	12
4-3. プレビュー タブ.....	15
4-4. 一般 タブ.....	16
4-5. ラベル タブ.....	21
4-5-1. ソースラベル/デスティネーションラベル.....	22
4-5-2. 概略ソースラベル/概略デスティネーションラベル.....	23
4-6. インヒビット タブ.....	24
4-7. ルーター サルボ タブ.....	25
4-8. グループ クロスポイント タブ.....	27
4-9. SG タブ.....	30
4-9-1. オーバーレイ機能 (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G).....	32
4-10. AVDL (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G).....	34
4-11. マルチビュー タブ.....	35
4-12. GPIO タブ.....	39
4-12-1. DSUB9-1 (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G 以外).....	41
4-12-2. DSUB9-1 (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G).....	42
4-12-3. DSUB15-1、DSUB15-2.....	44
4-12-4. DSUB15-3 (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G).....	45
4-12-5. Status Out.....	46
4-12-6. Tally In.....	46
4-12-7. Tally Out.....	47
4-12-8. Salvo.....	47
4-12-9. Multiview Switch.....	48
4-13. マトリックス分割 タブ.....	49
4-14. NS-BUS タブ.....	50
4-15. 時刻 タブ.....	52

4-16. ネットワーク タブ	54
4-17. アップデート タブ	55
4-18. 製品情報 タブ	56
5. オーディオ系ルーターの設定	57
5-1. ステータス タブ	57
5-2. 入力ステータス タブ	58
5-3. 一般 タブ	59
5-4. SG タブ	60
5-5. レート変換 タブ	62
6. コントロールパネルの設定	63
6-1. 一般 タブ	63
6-2. 接続先 タブ	66
6-3. ラベル タブ	68
6-4. ボタン タブ	69
6-4-1. BUS コマンド	72
6-4-2. DEST N コマンド	75
6-4-3. SRC N コマンド	76
6-4-4. DEST コマンド	77
6-4-5. SRC コマンド	78
6-4-6. NUMBER コマンド	79
6-4-7. DEST_LOCK コマンド	80
6-5. コントロールパネル サルボ タブ	81
6-6. 時刻 タブ	82
6-7. ネットワーク タブ	82
6-8. アップデート タブ	82
6-9. 製品情報 タブ	82
7. お問い合わせ	83

1. 概要

ルーティングスイッチャーGen シリーズは、構成や設定の確認、変更、操作を Web ブラウザーで行うことができます。

2. 特長

- Gen シリーズのルーター又はコントロールパネルのステータス表示、設定確認・変更が Web ブラウザーで可能
- ブロードキャストドメインに接続されているすべてのルーターとコントロールパネルを自動検出可能
- SNMP TRAP の通知／非通知を項目ごとに設定可能

3. システム要件

3 – 1. 対応ブラウザ

Google Chrome および Microsoft Edge に対応しています。

Microsoft Edge に関しては、バージョン情報表示で「このブラウザは Chromium オープンソースプロジェクトおよび他のオープンソースソフトウェアに基づいて機能します。」と記述があるものが対象です。

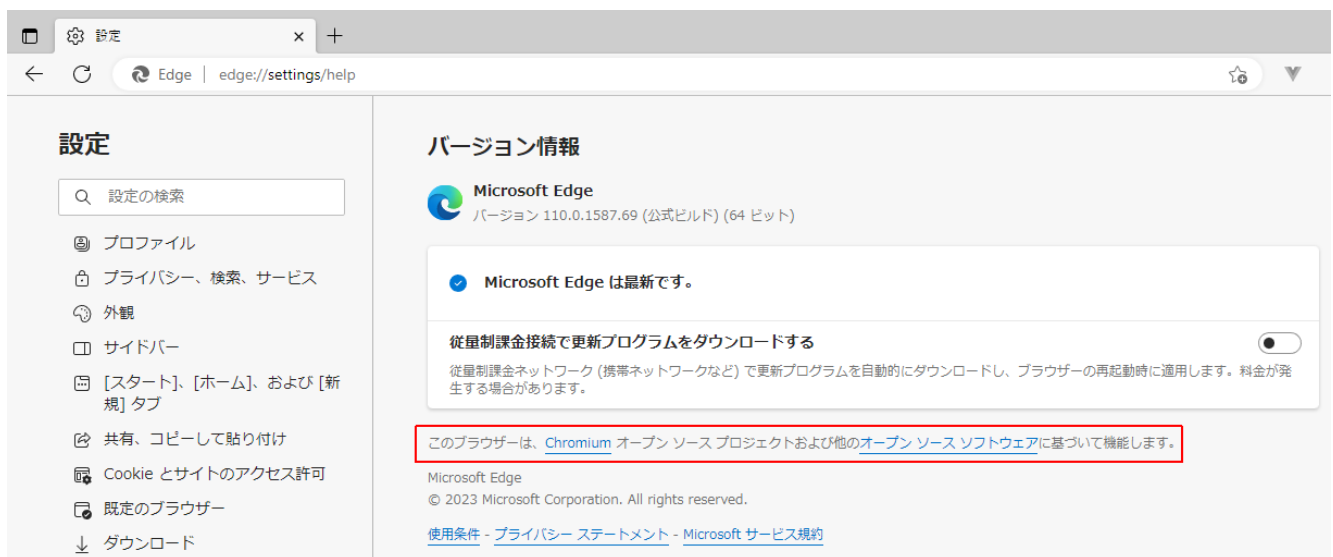


図 3-1 Microsoft Edge バージョン情報確認

3-2. ネットワーク環境

MG-LAN または、CP-LAN に接続されたルーターにブラウザが動作する PC を接続します。

3-3. 起動

ブラウザで IP アドレスを入力して、Gen に接続します。接続されているルーターの 1 つの IP アドレスを指定してください。

複数のルーターを接続する場合には、個別に接続し、IP アドレスを変更後、イーサネットスイッチで接続してください。

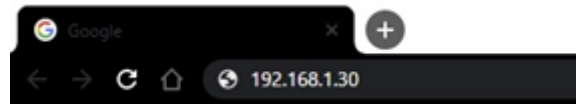


図 3-2 Gen Web アプリ起動方法

Gen に接続すると、CP-LAN に接続しているルーターとコントロールパネルの一覧が表示されます。

ルーターの IP アドレス出荷時設定は、Model ごとに異なり、SDI ルーターは“192.168.1.30”、AES ルーターは“192.168.1.31”です。

Model	MG-LAN 初期 IP アドレス
GenXXXX-3G、GenXXXX-12G、GenYYYY-12G-Plain	192.168.1.30
GenXXXX-AES、GenYYYY-AES-Plain	192.168.1.31

※XXXX は 1616、2424、3232、4848、6464、7272 を表します。

※YYYY は 1616、3232 を表します。

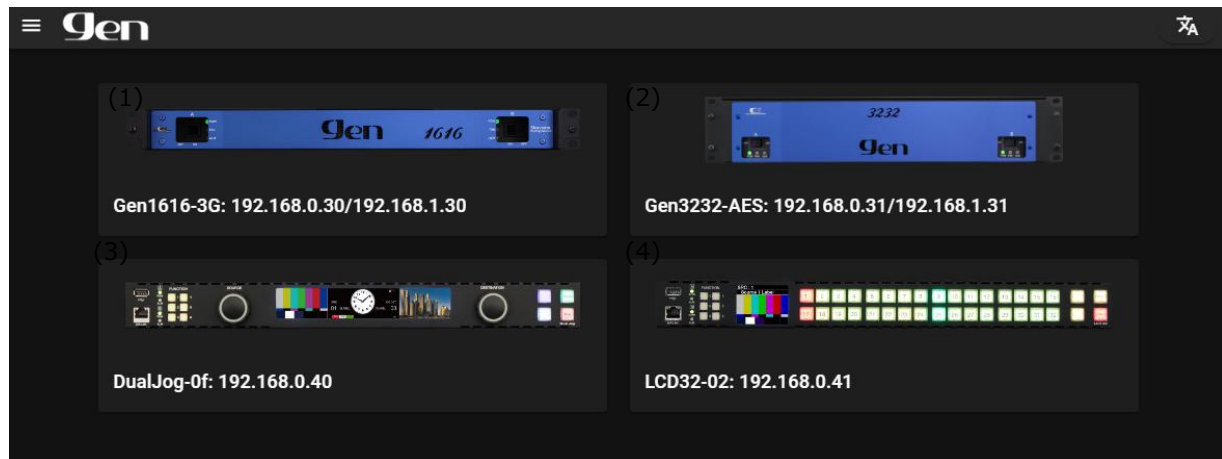


図 3-3 接続機器一覧画面例

上記例では、2 台のルーターと 2 台のコントロールパネルが検出されています。

- (1) ビデオ系ルーター本体: Gen1616-3G
- (2) オーディオ系ルーター本体: Gen3232-AES
- (3) コントロールパネル: DualJog (コントロールパネル名称 DualJog-Of)
- (4) コントロールパネル: LCD32 (コントロールパネル名称 LCD32-02)

(1),(2)のルーター本体は CP_LAN、MG_LAN の 2 系統があり CP_LAN、MG_LAN の順に表示されます。

(1)Gen1616-3G を例にすると 192.168.0.30 が CP_LAN、192.168.1.30 が MG_LAN の IP アドレスです。

(3),(4)のコントロールパネルは CP_LAN の IP アドレスを意味します。コントロールパネル名称は、モデル名+MAC アドレス下 2 桁が出荷時設定です。

各々の画像を押下すると、押下したルーター、コントロールパネルの設定画面に遷移します。

4. ビデオ系ルーターの設定

画面上部に設定項目ごとのタブが表示され、タブを選択することにより各種設定を行います。

ステータスタブを押下すると、以下のタブが表示されます。



図 4-1 ビデオルーター：ステータスタブ画面

- ・電源 A,B：電源 A,B の 12V 出力の状態と出力電圧値を表示します。
- ・FAN A1,B1：回転状態と回転数を表示します。FAN の数は、モデルにより異なります。
 - A1: 電源 A(左側電源) 1 つ目のファン
 - A2: 電源 A(左側電源) 2 つ目のファン
 - B1: 電源 B(右側電源) 1 つ目のファン
 - B2: 電源 B(右側電源) 2 つ目のファン
 - C: 筐体中央ファン
- ・CPU 温度：搭載 CPU の温度状態と温度を表示します。
- ・FPGA 温度：制御 FPGA（搭載デバイス）のチップ内温度の状態と、温度を表示します。

正常時は背景が緑で OK、異常時は背景が赤で NG と表示されます。

モデルごとのファン構成は以下の通りです。AES モデルは全てファンレスです。

Model	A1	B1	A2	B2	C
AES モデルすべて	×	×	×	×	×
Gen1616-3G/12G Gen1616-12G-Plain Gen3232-12G-Plain	○	○	×	×	×
Gen2424-3G/12G Gen3232-3G/12G	○	○	○	○	×
Gen4848-3G/12G Gen6464-3G/12G Gen7272-12G	○	○	×	×	○

4 - 1. 入力ステータス タブ

入力ステータス タブを押下すると、以下のタブが表示されます。



図 4-2 入力ステータス画面

リファレンス入力、ソース入力の状態を表示します。リファレンス入力は入力ビデオフォーマットを表示します。

それぞれ、信号にロックした場合は Lock、ロックできなかったときは Unlock と表示されます。

ソース入力は、SDI 信号の Lock/Unlock 状態と入力ビデオフォーマットを表示します。

SDI 信号の検出は、最大 1 分程度更新が遅れることがあります。

4 - 2. クロスポイント タブ

クロスポイント タブを押下すると、以下のタブが表示されます。

・ステータス確認モード:

現在のクロスポイントの選択状態を確認できます。このモードでは設定の変更はできません。

ルーターサルボの実行やクロスポイント設定等を変更する場合は、スイッチをスライドし編集モードにしてください。

ステータス確認モード

単一クロスポイント Take

デスト 1:DST01

ソース 1:SRC01

▶ TAKE

サルボ実行

無効 UnitMtx

▶ 実行

マルチビュープリセット切替

無効 Preset1

▶ 実行

LOCK 切替

無効 DEST LOCK ALL

クロスポイント切替

無効

SRC \ DEST	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	SG	MV	DEST LOCK
1	○												×	×	×	×			UNLOCKED
2	○																		LOCKED
3	○																		LOCKED
4	○																		UNLOCKED
5					○														UNLOCKED
6					○														UNLOCKED
7					○														UNLOCKED
8					○														UNLOCKED
9									○										UNLOCKED
10									○										UNLOCKED
11									○										UNLOCKED
12									○										UNLOCKED
13													○						UNLOCKED
14													○						UNLOCKED
15													○						UNLOCKED
16													○						UNLOCKED

1:SRC01 -> 3:DST03
Locked-by 127.0.0.1

マウスオーバーで以下を表示します

- ・マトリックスの概略ラベル
- ・LOCK しているコンパネの IP※

※Web から LOCK した場合は 127.0.0.1 と表示されます

図 4-3 クロスポイント ステータス確認モード画面

・編集モード:

各設定の変更ができます。有効/無効がある操作はスイッチをスライドして有効にした後、任意の設定を選択し実行してください。

SRC DEST	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	SG	MV	DEST LOCK
1	○												×	×	×	×			UNLOCKED
2	○																		LOCKED
3	○																		LOCKED
4	○																		UNLOCKED
5					○														UNLOCKED
6					○														UNLOCKED
7					○														UNLOCKED
8					○														UNLOCKED
9									○										UNLOCKED
10									○										UNLOCKED
11									○										UNLOCKED
12									○										UNLOCKED
13													○						UNLOCKED
14													○						UNLOCKED
15													○						UNLOCKED
16													○						UNLOCKED

図 4-4 クロスポイント ステータス編集モード画面

・単一クロスポイント Take: (編集モード時のみ変更可能)

クロスポイントを単独で Take することができます。任意のデストとソースを選択後、右の「TAKE」ボタンを押下してください。

押下後、確認ダイアログに「OK」押下でクロスポイント切替が実行されます。

・サルボ実行: (編集モードかつ有効時のみ実行可能)

ルーターに設定されたサルボを実行することができます。同じ行のスイッチをスライドして有効にするとサルボ名称が選択できるようになり、「実行」ボタンが赤くなります。任意のサルボ名称を選択後、右の「実行」ボタンを押下してください。

・マルチビュープリセット切替: (編集モードかつ有効時のみ実行可能)

マルチビュー機能を持つルーターの場合、このメニューが表示されます。指定したマルチビュープリセットに切り替えることができます。

同じ行のスイッチをスライドして有効にするとマルチビュープリセット名称が選択できるようになり、「実行」ボタンが赤くなります。

任意のマルチビュープリセット名称を選択後、右の「実行」ボタンを押下してください。

・LOCK 切替: (編集モードかつ有効時のみ実行可能)

LOCK 状態を切り替えることができます。同じ行のスイッチをスライドして有効にすると LOCK の種別が選択できるようになり、クロスポイント表示右のボタンが押下できるようになります。任意の LOCK 種別を選択し、クロスポイント表示右のボタンを押下してください。

LOCK 種別	背景色	機能
UNLOCKED	緑	Web/RS-232C、すべてのコントロールパネルからクロスポイント切替ができます
DEST LOCK ALL	赤	Web/RS-232C、すべてのコントロールパネルからクロスポイント切替を禁止します
DEST LOCK OTHER	ピンク	DEST_LOCK_OTHER をかけたコントロールパネルからのみクロスポイント切替ができます※

※ WebからDEST_LOCK_OTHERを設定した場合、クロスポイント切替はWeb/RS-232Cからのみクロスポイント切替が可能です。
RS-232C のみのクロスポイント切替を行う場合、DEST_LOCK_OTHER を設定後ステータス確認モードに変更してください。

・クロスポイント切替: (編集モードかつ有効時のみ実行可能)

任意のクロスポイントを押下すると、クロスポイント切替が実行されます。同じ行のスイッチをスライドして有効にするとクロスポイント表示が緑○で表示され、変更できるようになります。インビット設定の赤×、DEST_LOCK_ALL の赤背景のクロスポイントは変更できませんので注意してください。

4-3. プレビュー タブ

プレビュー タブを押下すると、以下のタブが表示されます。



図 4-5 プレビュー画面

・種別：

表示するプレビューをソースかデスティネーションかを選択します。

・番号：

種別がソースの場合クロスポイント入力と SG(内部信号発生機)、MV(マルチビュー)、デストの場合クロスポイントが選択しているソース画像をプレビューできます。

プレビュー機能を有効にするためには、ビデオ系ルーター：一般タブで**プレビュー可能なデバイス**に「**Web Browser**」が選択されていることを確認してください。

また、プレビュー可能なデバイスは Web Browser を含めて 4 台であるため、複数台のコントロールパネルを接続する場合は注意してください。

4 - 4 . 一般 タブ

一般タブを押下すると、以下のタブが表示されます。



図 4 -6 一般設定画面 1

・「保存」ボタン：

ボタンを押下すると、対象の機器に変更設定を反映させます。

・「取り消し」ボタン：

ボタンを押下すると、このタブでの変更が廃棄され、現在の設定に戻ります。

・ルーター名称：

ルーター名称が設定できます。初期設定値は、ルーターモデル名 + MAC アドレス下位 2 桁です。

・ルーターID：

ルーターの ID を設定します。

Gen システムでのルーターID は、ルーターの識別子として使用されますので、同じネットワーク内では、重複しない ID を設定します。

設定変更後、保存ボタンを押下することにより、ルーターに設定が保存されます。

工場出荷時の初期ルーターID は、以下の通りです。

Model	初期ルーターID
GenXXXX-3G、GenXXXX-12G、GenXXXX-12G-Plain	0
GenXXXX-AES、GenXXXX-AES-Plain	1

※XXXX は 1616、2424、3232、4848、6464、7272 を表します。

・システムフォーマット：

リファレンスに同期して切り替える時に、どのフォーマットのタイミングで切り替えるかを設定します。

システムフォーマットと同じフォーマットの信号は、スイッチングポイントで切り替わりますが、違うフォーマットはスイッチングポイント外で切り替わります。設定できるフォーマットは、以下の通りです。

初期設定は、**1080I59** です。

3G ルーターのシステムフォーマット

525I59	625I50	720P60	720P59	720P50	720P30	720P29	720P25
720P24	720P23	1080I60	1080I59	1080I50	1080P30	1080P29	1080P25
1080P24	1080P23	1080PSF30	1080PSF29	1080PSF25	1080PSF24	1080PSF23	1080P60A
1080P59A	1080P50A	1080P60B	1080P59B	1080P50B			

12G ルーターは 3G ルーター設定に加え、以下の設定が可能です。

2160P30	2160P29	2160P25	2160P24	2160P23	2160P60	2160P59	2160P50
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

・プレビュー可能なデバイス：

ビデオ系ルーター：プレビュータブや、LCD 搭載のコントロールパネルにプレビュー出力を許可する場合対象のデバイスを許可してください。

プレビューデバイスは**最大 4 台**までです。図 4-6 では、WebBrowser、DualJog-0f、LCD32-02 の 3 台が許可されています。

※コントロールパネル名称が重複したコントロールパネルが同一ネットワーク内に複数存在する場合、正しく表示されない場合があるため、出荷時のコントロールパネル名称はモデル名 + MAC アドレス下 2 桁としています。

複数台のコントロールパネルを接続する場合は、IP アドレス、名称が重複しないよう注意してください。

SNMPコミュニティ名
public
X

SNMPマネージャ設定

IP Address	Port	Trap OID Type
0.0.0.0	162	☐ 異なるOID
0.0.0.0	162	☐ 異なるOID

SNMPトラップ出力設定

ソース	トラップ出力
1: Source01	☒
2: Source02	☒
3: Source03	☒
4: Source04	☒
5: Source05	☐
6: Source06	☐
7: Source07	☐
8: Source08	☐
9: Source09	☐
10: Source10	☐
11: Source11	☐
12: Source12	☐
13: Source13	☐
14: Source14	☐
15: Source15	☐
16: Source16	☐

図 4-7 一般設定画面 2

・ **SNMP コミュニティ名 :**

SNMPv1 のコミュニティ名を設定します。デフォルトは“public”です。

・ **SNMP マネージャー設定 :**

SNMP マネージャーの設定を最大 2 箇所まで設定できます。

・ **IP Address :**

SNMP トラップ送信先のアドレスを設定します。“0.0.0.0”の場合、無効アドレスと判断し、トラップ送信しません。

・ **ポート :**

SNMP トラップ送信のポート番号を設定します。デフォルトは 162 です。

・ **Use Same Trap OID :**

「同じ OID」を選択したとき、正常/異常に関わらず、同じ Trap OID(3000 番台)を使用します。

「異なる OID」を選択したとき、正常(1000 番台)、異常(2000 番台)で異なる Trap OID を使用します。

Trap OID に関しては、MIB ファイルを参照してください。

・トラップ出力設定：

入力ソースごとに Lock/Unlock に状態が変わったときにトラップを送信するかどうかを設定します。

チェックをつけた場合、状態が変わったときにトラップを送信します。図ではソース 1～4 の状態が変わったときにトラップを送信します。

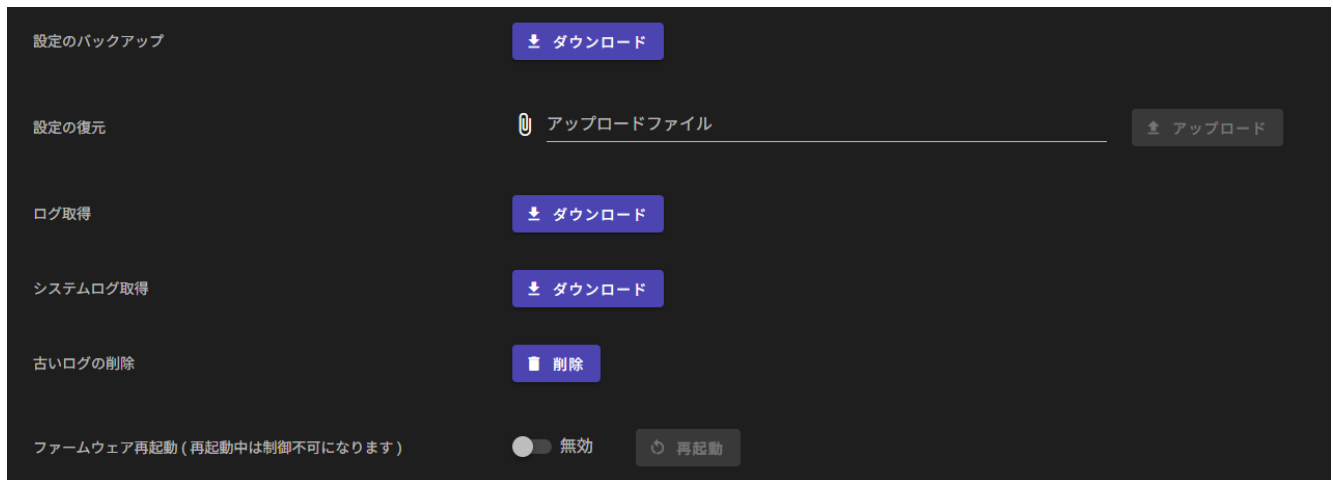


図 4-8 一般設定画面 3

・設定のバックアップ：

現在のルーター設定を保存します。

・設定の復元：

設定のバックアップで保存されたファイルを用いて、設定を復元します。ファイル選択後、アップロードボタンを押してください。

・ログ取得：

入力信号のステータス変更、クロスポイント変更などのログを取得します。ログはテキストファイルです。

ログファイル名は モデル名-シリアル番号-年月日-時分_event.txt の形で保存します。

ログは、日付、種別、ターゲット、状態の順に表示します。

種別は info/normal/warn/ALARM の 4 種類です。

ターゲットは input(入力)、ref、Fan、power(電源)、xxpt(クロスポイント切替)などです

状態は入力の場合、フォーマット、クロスポイント切替の場合コマンド文字列です。

ログ例

```
2022-11-11 11:59:39.361814, normal , input 1, lock , 1080I59
2022-11-11 11:59:39.361970, normal , input 3, lock , 1080I59
2022-11-11 11:59:39.362049, normal , input 4, lock , 1080I59
2022-11-11 11:59:39.394531, normal , ref sdi, lock , 1080I59
2022-11-11 11:59:39.394806, ALARM , power B, NG
2022-11-11 12:00:10.499126, info , [CEBUS] xxpt, 192.168.0.40, {"crosspoints": [[2, 0]], "element": 1, "layer_id": 0, "router_id": 0}
2022-11-11 12:00:10.585903, info , [NSBUS] RunNotify() MtxNotifyXptChanged
2022-11-11 12:00:25.211098, normal , power B, OK
2022-11-11 12:09:41.925487, ALARM , input 1, UNLOCK , No Signal
2022-11-11 12:10:13.118431, normal , input 1, lock , 1080I59
```

・システムログ取得：

システムログを取得します。システムログはテキストファイルです。

システムログファイル名は モデル名-シリアル番号-年月日-時分_syslog.txt の形で保存します。

システムログは、より詳細な内容を保存しており、形式は様々です。主に詳細動作解析の目的で使います。

・古いログの削除：

古いログを削除します。削除ボタン押下で確認ダイアログが表示されます。削除する場合は「OK」ボタンを押下してください。

ログは一定量ごとにファイルを分割しており、複数個のファイルで保存しています。

削除を実行すると、現在出力中のログファイルは削除せず、古いログのみを削除します。

主に各ログ取得後、次のダウンロード時間を短くする目的で使います。

・ファームウェア再起動：

ファームウェアを再起動します。有効/無効スイッチをスライドして有効にした後、再起動ボタン押下で確認ダイアログが表示されます。

再起動する場合は「OK」ボタンを押下してください。

再起動中は制御不可になりますので、ご注意ください。また、再起動に時間がかかる場合があります。

再起動により、クロスポイントの状態が変化することはありません。また、入出力信号に影響が出ることもありません。

4 - 5. ラベル タブ

ラベル タブを押下すると、以下のタブが表示されます。

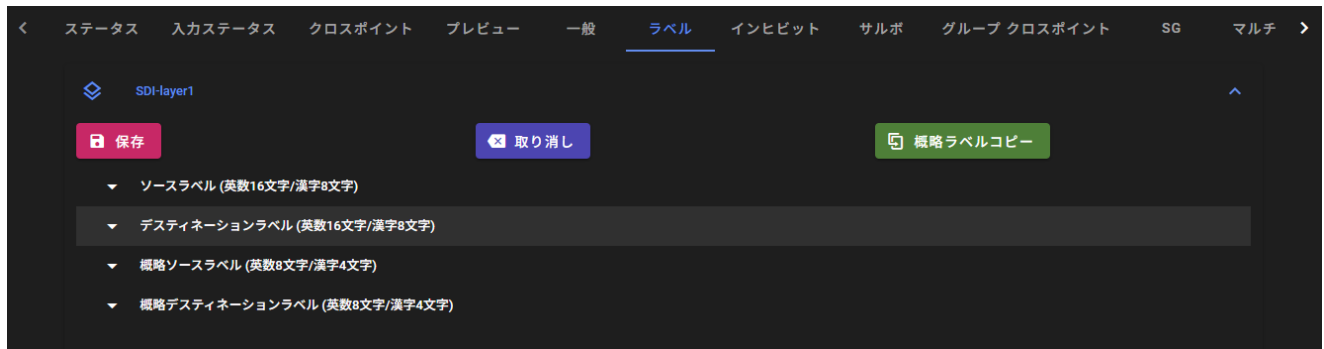


図 4 -9 ラベル設定画面 1

SDI-layer1:

レイヤー名称です。名称の変更はマトリックス分割タブで行います。

工場出荷時設定は SDI ルーターの場合 SDI-layer1、AES ルーターの場合 AES-layer1 です。

・「保存」ボタン：

ボタンを押下すると、対象の機器に変更設定を反映させます。

・「取り消し」ボタン：

ボタンを押下すると、このタブでの変更が廃棄され、現在の設定に戻ります。

・「概略ラベルコピー」ボタン：

ボタンを押下すると、概略ソースラベル/概略デスティネーションラベルを、ソースラベル/デスティネーションラベルにコピーします。

コピーを反映させるためには保存ボタン、やめるときは取り消しボタンを押下してください。

※概略ソースラベル、概略デスティネーションラベルを設定し、「保存」ボタンを押下後に「概略ラベルコピー」ボタンを押下してください。

4 - 5 - 1 . ソースラベル/デスティネーションラベル

ソースラベルまたはデスティネーションラベルを押下するとソース/デストラベル名の設定画面が表示されます。

図 4-10 ラベル設定画面 2

設定したラベル名は、マルチビューと DualJog、TTDualJog、TT32 の詳細ラベル表示モードで使用されます。

半角英数字 16 文字、漢字 8 文字まで設定が可能です。

設定変更後、保存ボタンを押下することにより、ルーターに設定が保存されます。

4 - 5 - 2 . 概略ソースラベル/概略デスティネーションラベル

概略ソースラベルまたは概略デスティネーションラベルを押下するとソース/デスト概略ラベル名の設定画面が表示されます。

The screenshot displays a configuration screen for labels. At the top, there are three buttons: '保存' (Save) in red, '取り消し' (Cancel) in blue, and '概略ラベルコピー' (Copy Label) in green. Below these buttons, there is a list of sources and their corresponding destination labels. The sources are listed on the left, and the destination labels are listed on the right. The sources are: Source1, Source2, Source3, Source4, Source5, Source6, Source7, Source8, Source9, and Source10. The destination labels are: SRC01, SRC02, SRC03, SRC04, SRC05, SRC06, SRC07, SRC08, SRC09, and SRC10. The '概略ソースラベル' (Summary Source Label) is highlighted in blue.

Source	Destination Label
Source1	SRC01
Source2	SRC02
Source3	SRC03
Source4	SRC04
Source5	SRC05
Source6	SRC06
Source7	SRC07
Source8	SRC08
Source9	SRC09
Source10	SRC10

図 4 -11 ラベル設定画面 3

設定した概略ラベル名は、LCD 搭載コントロールパネルの詳細ラベル表示モード以外で使用されます。

半角英数字 8 文字、漢字 4 文字まで設定が可能です。

設定変更後、保存ボタンを押下することにより、ルーターに設定が保存されます。

4-6. インビット タブ

インビット タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

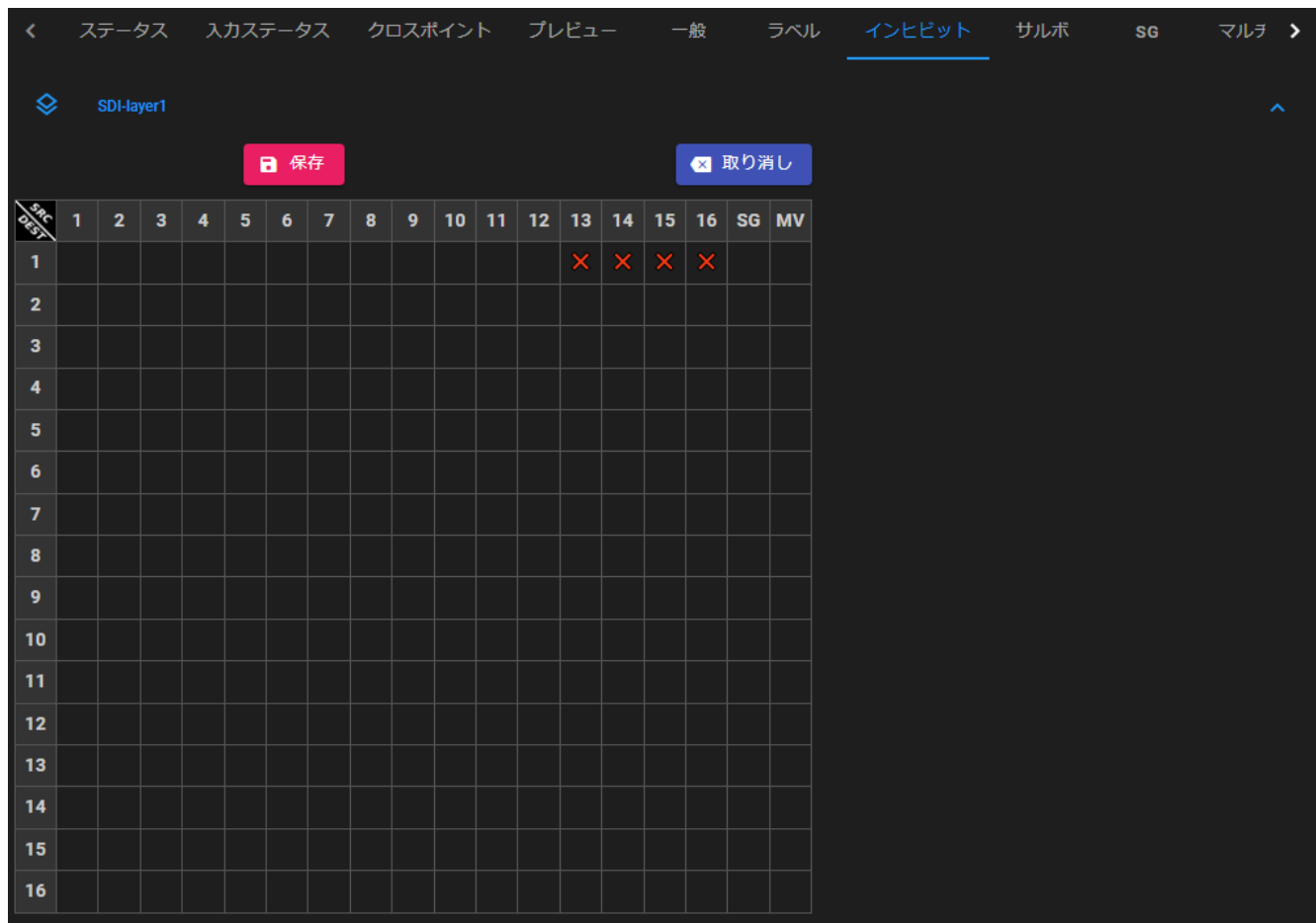


図 4-12 インビット設定画面

インビット(設定禁止)するクロスポイントを押下することにより、インビットを設定します。

クロスポイントを再度押下することによりインビット設定を解除できます。ドラッグ操作により範囲選択が可能です。

取り消しボタンを押下すると、保存前の設定状態に戻ります。

設定変更後、保存ボタンを押下することにより、ルーターに設定が保存されます。

インビット設定されたソースは DualJog のロータリーエンコーダでソース選択の際、選択できないようにスキップされます。

デスト 1 の例ではソース 12 の次はソース SG が表示され、ソース SG の前はソース 12 が表示されます。

(1 ↔ 2 ↔ 3 ↔ 4 ↔ 5 ↔ 6 ↔ 7 ↔ 8 ↔ 9 ↔ 10 ↔ 11 ↔ 12 ↔ SG ↔ MV)

コントロールパネルで「無効ボタンの LED 消灯」を「はい」にしている場合、SRC_N、NUMBER を設定したボタンで、インビット設定されたソース番号に該当する場合、ボタンは消灯します。

4 – 7. ルーター サルボ タブ

サルボ タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。



図 4-13 サルボ設定画面

初期設定では、「UnitMtx」という単位行列にマトリクス設定するサルボと、全てのデストをカラーバーにする「ColorBar」というサルボが登録されています。

・「サルボ追加」ボタン

新しいサルボを登録するときはサルボ名を入力後、「サルボ追加」ボタンを押下してください。

・「サルボ削除」ボタン

削除するサルボにサルボ名を入力後、「サルボ削除」ボタンを押下してください。

ルーター サルボは、最大 256 個まで登録することが可能です。

Router Model	最大登録サルボ数
全てのルーター	256 個

登録されているサルボの設定変更をする場合には、1:UnitMtx などのサルボ名を押下してください。

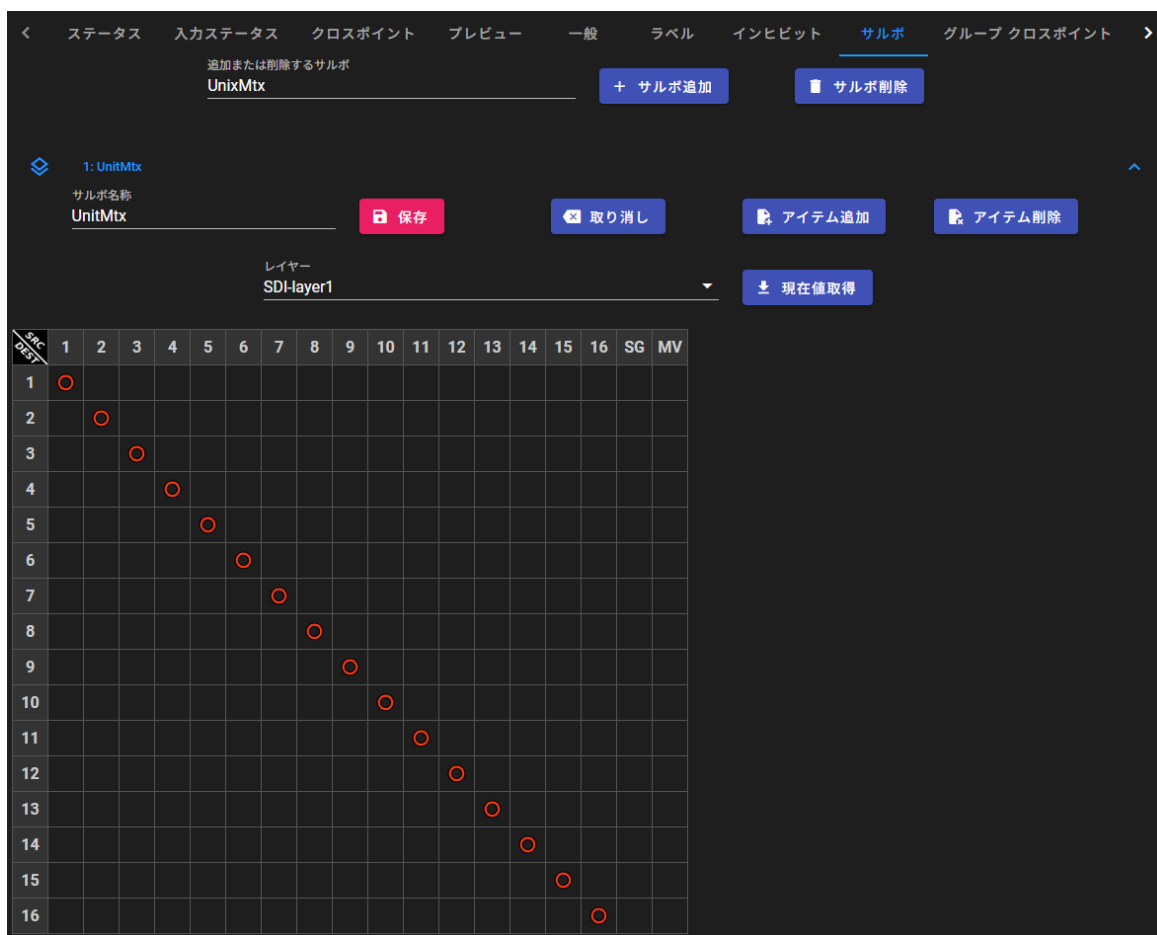


図 4-14 サルボ設定画面(UnitMtx)

・「保存」ボタン：

ボタンを押下すると、現在のサルボ設定を保存します。

・「取り消し」ボタン：

ボタンを押下すると、保存前の設定状態に戻ります。

・「アイテム追加」ボタン：

・「アイテム削除」ボタン：

ルーターが複数レイヤーで構成される場合、レイヤーごとのクロスポイント設定が可能です。(現在のバージョンでは対応していません。)

・「現在値取得」ボタン：

レイヤー横の「現在値取得」ボタンを押下すると、現在のクロスポイント設定を取り込むことができます。

サルボ名称は大文字、小文字を区別します。複数のサルボを登録する場合、同じサルボ名称にならないよう注意してください。

サルボ名称は半角英数字 16 文字以内に納めるようにしてください。Standard32/Standard16/TT8 でサルボ名称が漢字の場合、実行できないことがありますので、テストして実行できることを確認してください。DualJog/LCD32/LCD16/OLED18/TTDualJog/TT32 などの表示機能を持つコントロールパネルの場合、漢字もサポートします。

4 - 8. グループ クロスポイント タブ

グループ クロスポイント タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

グループクロスポイントは、Dual-Link など複数のソース、デストを 1 つのクロスポイントとして扱うときに設定します。



図 4-15 グループ クロスポイント設定画面

・LINK 数：

複数のクロスポイントを 1 つのソース、デストとして扱います。2 ～8 まで選択できます。

6G Dual-Link のときは 2、12G Quad-Link のときは 4 を設定してください。

・リンク数「追加」ボタン①：

LINK 数を設定後、「追加」ボタン①を押下してください。

以下 LINK 数 2 として説明します。

2 を設定後押下した場合、図 4-15 の画面となります。

グループソース、グループデスト共、最低 1 つの設定を行うことで Dual-Link として扱うことができます。

・リンク数 2「削除」ボタン②：

LINK 数 2 のグループ ソース/デストを削除します。

・グループソース「追加」ボタン③：

LINK 数 2 のグループソースを追加します。

追加ボタンを押下するごとに「Group 1」、「Group 2」のラベル名のグループ ソースが作成されます。

・グループソース「削除」ボタン④：

LINK 数 2 の設定済みグループ ソース全体を削除します。

・グループデスト「追加」ボタン⑤：

LINK 数 2 のグループ デストを追加します。

追加ボタンを押下することにより「Group 1」、「Group 2」のラベル名のグループ デストが作成されます。

・グループデスト「削除」ボタン⑥：

LINK 数 2 の設定済みグループ デスト全体を削除します。

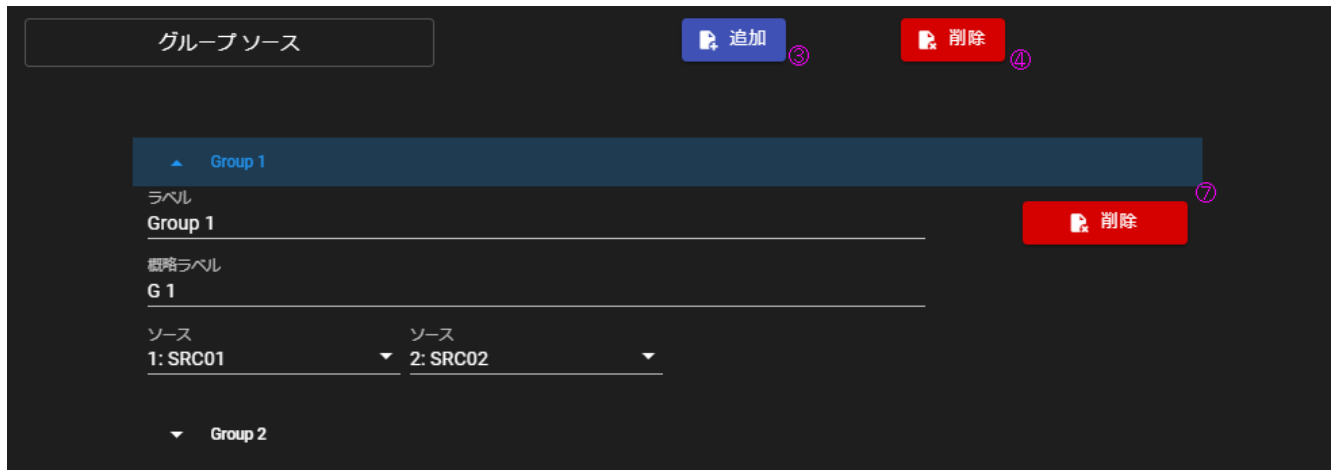


図 4-16 グループ ソースの追加・削除、設定画面

グループ ソース横の 追加ボタン③を 2 回押下すると、「Group 1」、「Group 2」の 2 つの LINK 数 2 のグループソースが作成されます。

・「削除」ボタン⑦：

ラベル「Group 1」で表示されるグループ ソースのみを削除するとき、このボタンを押下します。

・ラベル(グループ ソース)：

グループ ソースのラベル名を設定します。**半角英数字 16 文字、漢字 8 文字**まで設定が可能です。

本ラベルは DualJog などの LCD 付きコントロールパネルのグループ ソース表示に使用します。

ラベルを変更すると、青字の表示もラベル名に合わせて変更します。



図 4-17 グループ ソース ラベルの変更画面

・概略ラベル(グループ ソース)：

グループ ソースの概略ラベル名を設定します。**半角英数字 8 文字、漢字 4 文字**まで設定が可能です。

本ラベルは DualJog などの LCD 付きコントロールパネルのグループ ソース表示に使用します。

・ソース：

グループ ソースを構成するソースをします。例えばカラーバーのように同じソース番号を選択することも可能です。

グループ ソース同様、グループ デストの追加ボタン⑤を 2 回押下すると、「Group 1」、「Group 2」の 2 つの LINK 数 2 のグループ ソースが作成されます。

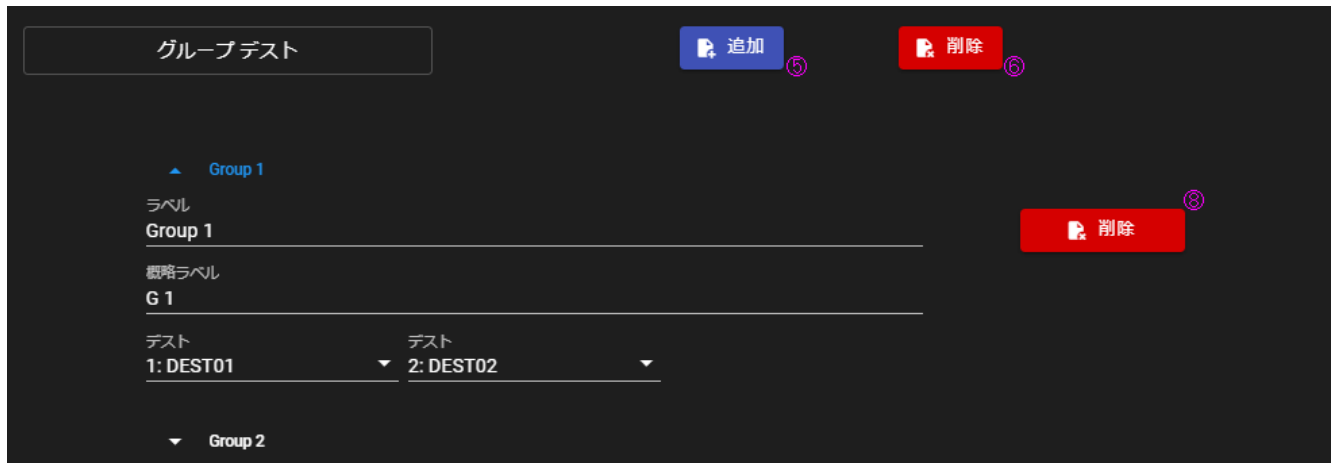


図 4-18 グループ デストの追加、設定画面

・「削除」ボタン⑧：

ラベル「Group 1」で表示されるグループ デストのみを削除するとき、このボタンを押下します。

・ラベル(グループ デスト)：

グループ デストのラベル名を設定します。**半角英数字 16 文字、漢字 8 文字**まで設定が可能です。

本ラベルは DualJog などの LCD 付きコントロールパネルのグループ デスト表示に使用します。

ラベルを変更すると、グループ ソース同様青字の「Group 1」も変更されます。

・概略ラベル(グループ デスト)：

グループ デストの概略ラベル名を設定します。**半角英数字 8 文字、漢字 4 文字**まで設定が可能です。

本ラベルは DualJog などの LCD 付きコントロールパネルのグループ デスト表示に使用します。

・デスト：

グループデストを構成するデストを選択します。

デストは同じデスト番号は選択できません。必ず異なるデスト番号を設定してください。

4 - 9 . SG タブ

SG(Signal Generator)タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

図 4-19 SG 設定画面 1

・「保存」ボタン：

ボタンを押下すると、対象の機器に変更設定を反映させます。

・「取り消し」ボタン：

ボタンを押下すると、このタブでの変更が廃棄され、現在の設定に戻ります。

・ラベル(漢字 8 文字)：

コントロールパネルで SG を選択したときのラベル名称を設定します。**半角英数字 16 文字、漢字 8 文字**まで設定が可能です。

ラベルは DualJog などの LCD 付きコントロールパネルのグループ ソース表示に使用します。

概略ラベル(漢字 4 文字)：

コントロールパネルで SG を選択したときの概略ラベル名称を設定します。**半角英数字 8 文字、漢字 4 文字**まで設定が可能です。

本ラベルは DualJog などの LCD 付きコントロールパネルのグループ ソース表示に使用します。

・パターン：

以下の 6 種類のパターンから選択可能です。

1	ARIB Color Bar
2	100% Color Bar
3	75% Color Bar
4	SMPTE Color Bar
5	Black
6	White

・スクロール：

画像のスクロールの「有効」、「無効」を選択します。

・ID キャラクター：

ID キャラクター表示の「有効」、「無効」を選択します。

ID キャラクターは Gen モデル名固定です。

Gen1616-3G の場合は、「Gen1616-3G」と表示されます。

・ID ブリンク：

ID キャラクターのブリンク機能の「有効」、「無効」を選択します。

・音声レベル：

エンベデッド音声のレベルを「-20dBFS」、「-40dBFS」から選択します。

・音声周波数：

エンベデッド音声の周波数を「1kHz」、「400Hz」から選択します。

・音声グループ、チャンネル：

音声グループ 1,2 の各チャンネルの「有効」、「無効」を選択します。

4-9-1. オーバーレイ機能 (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G)

TGA ファイルのオーバーレイ機能を有する機種は以下のような画面が表示されます。

図 4-20: SG 設定画面 2

・オーバーレイ：

オーバーレイ機能の有効、無効を設定します。

・tga ファイル：

オーバーレイする tga ファイル名を指定します。拡張子は小文字で tga としてください。

横幅	最大 3920 画素
ライン数	最大 2160 ライン
bit 深度	24bit(RGB) / 32bit(RGBA)
画像タイプ	非圧縮 / ランレングス符号化

・Upload tga ファイル:

tga ファイルを指定し、「アップロード」ボタンを押下してください。

アップロードしたファイルを有効にするためには「保存」ボタンを押下してください。

・ブリンク

「有効」の場合ブリンクします。ブリンク速度を設定してください。

・ブリンク速度(x200ms)

1 秒間隔でブリンクする場合 5 を指定してください。

・スクロール

「有効」の場合、座標(X,Y)を起点に設定したスクロール速度でスクロールします。

・スクロール速度 X:

・スクロール速度 Y:

-16～+15 の範囲で指定します。

・スクロール速度 X:

0～3839 の範囲で指定します。

・スクロール速度 Y:

0～2156 の範囲で指定します。

4 - 1 0 . AVDL (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G)

AVDL タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

The screenshot shows the AVDL settings interface. At the top, there is a navigation bar with tabs: ラベル, インヒビット, サルボ, グループ クロスポイント, SG, AVDL (selected), マルチビュー, GPIO, マトリックス分割, MRP, and NS-BUS. Below the navigation bar, there are two main sections: AVDL1 設定 and AVDL2 設定. Each section contains a toggle switch for 'AVDL利用' (currently '無効'), a dropdown menu for 'デスト選択' (currently '1: Destination01' and '2: Destination02' respectively), a slider and input field for '水平遅延画素数' (set to 0), and a slider and input field for '垂直遅延ライン数' (set to 1). At the top of the settings area, there are buttons for '保存' (Save) and '取り消し' (Cancel).

図 4 -21: AVDL 設定

・AVDL1 利用:

・AVDL2 利用:

利用するとき「有効」にします。

・デスト選択:

AVDL を利用するデストを選択します。

・水平遅延画素数:

0～3839 画素の範囲で指定します。

・垂直遅延画素数:

0～2 ラインの範囲で指定します。

4-11. マルチビュー タブ

マルチビュー タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

ラベル位置設定		
Quad 1/4 Size	20	px
10 Divisions 1/4 Size	20	px
10 Divisions 1/16 Size	20	px
16 Divisions 1/16 Size	20	px
Custom 1/1 Size	20	px

図 4-22 マルチビュー設定画面

・「保存」ボタン：

ボタンを押下すると、対象の機器に変更設定を反映させます。

・「取り消し」ボタン：

ボタンを押下すると、このタブでの変更が廃棄され、現在の設定に戻ります。

・マルチビュー出力：

マルチビュー出力の「有効」、「無効」を選択します。

・マルチビューラベル(漢字 8 文字)：

コントロールパネルでマルチビューを選択したときのラベル名称を設定します。**半角英数字 16 文字、漢字 8 文字**まで設定が可能です。

本ラベルは DualJog などの LCD 付きコントロールパネルのグループ ソース表示に使用します。

・マルチビュー概略ラベル(漢字 4 文字) :

コントロールパネルでマルチビューを選択したときの概略ラベル名称を設定します。**半角英数字 8 文字、漢字 4 文字**まで設定が可能です。
本ラベルは DualJog などの LCD 付きコントロールパネルのグループ ソース表示に使用します。

・スキャンモード :

スキャン方式をインターレース、プログレッシブから選択します。

・ラベル位置設定 :

Quad 1 /4 Size	4 分割時のラベル位置高さをピクセル単位で指定します
10 Divisions 1 /4 Size	10 分割時の 1/4 サイズのラベル位置高さをピクセル単位で指定します
10 Divisions 1 /16 Size	10 分割時の 1/16 サイズのラベル位置高さをピクセル単位で指定します
16 Divisions 1 /16 Size	16 分割時のラベル位置高さをピクセル単位で指定します
Custom 1/1 Size	カスタムの分割レイアウト時の設定です 現バージョンでは 1/1 サイズのみになっています

マルチビュープリセット名称

+ 追加

削除

Div4

↑

プリセット名称

Div4

分割区切り

☒ 有効

ラベルサイズ

Medium

分割レイアウト

Quad

✓

表示する映像

種別

Destination

1: DEST01

Rタリー条件

種別

None

Gタリー条件

種別

None

ラベル表示

☒ 有効

ラベル選択

Source

図 4-23 マルチビュープリセット設定画面

・マルチビュープリセット名称：

追加または削除したいマルチビュープリセット名称を入力して、追加ボタン、削除ボタンを押下してください。

・プリセット名称：

設定されているプリセット名称です。名称を変更する場合、変更後保存ボタンを押下してください。

・分割区切り：

分割の境界線区切りの有効・無効を切り替えます。有効にすると、分割境界に 4 画素/ 4 ラインの境界線を描画します。

有効な場合、表示画像は上下左右 4 画素/4 ライン分クリップされます。

・ラベルサイズ：

マルチビューにラベル表示を行う場合の文字サイズを「Large」、「Medium」、「Small」から選択します。

・分割レイアウト：

分割レイアウトを選びます。項目の下はレイアウト図で、選択した箇所に✓(チェック)マークが表示されます。

・表示する映像：

✓マークの選択箇所に表示する映像を Source、Destination を選択し、ソース/デストを選択します。

表示する映像に Destination を選択した場合、ラベル表示で Source、Destination、Both を選択することができます。

・R タリー条件/G タリー条件：

R タリー/G タリーを表示する条件を指定します。条件は Source 番号、Destination 番号、ルーターSalvo 名、GPI Port 番号から選択できます。

種別	R タリー/G タリー条件
Source	ソース番号を指定
Destination	デスティネーション番号を指定
Salvo	ルーターSalvo 名称を指定
GPI	GPIO タブ:Tally In/サブ機能マルチビュータリーで設定したものから選択

・ラベル表示：

分割画面のラベル表示の有効・無効を切り替えます。

・ラベル選択：

表示する映像が「Source」の場合は、「Source」のみ選択できます。

表示する映像が「Destination」の場合「Source」、「Destination」、「Both」から選択できます。

表示ラベルは、4 - 5 - 1. ソースラベル/デスティネーションラベルで設定されたソースラベル、デスティネーションラベルを使用します。

ラベル選択	表示内容
Source	表示する映像が Source の場合、ソース番号のソース名が表示されます。 表示する映像が Destination の場合、デスティネーション番号が選択しているソース番号のソース名を表示します。
Destination	デスティネーション番号のデスティネーション名を表示します。
Both	「ソース名:デスティネーション名」のフォーマットでデスティネーション名と現在選択しているソース名を表示します。 表示幅を揃えたい場合、ソース名、デスティネーション名にスペースや'_'(アンダースコア)などの文字を追加するなどして調整してください。

4 – 1 2 . GPIO タブ

GPIO 搭載数はモデルごとに以下の通りです。

モデル	DSUB9	DSUB15-1	DSUB15-2	DSUB15-3
Gen1616-3G/12G/AES Gen1616-12G-Plain Gen3232-12G-Plain Gen1616-AES-Plain Gen3232-AES-Plain	○	×	×	×
Gen2424-3G/12G/AES Gen3232-3G/12G/AES Gen4848-AES Gen6464-AES	○	○	×	×
Gen4848-3G Gen6464-3G	○	○	○	×
Gen4848-12G Gen6464-12G Gen7272-12G	○ ※1	○	○	○

※1 DSUB9 は RS-232C 専用です。

Gen の GPIO はエッジ/レベル選択と極性の Low/High 選択が可能です。

エッジの場合、200ms のパルスとなります。

GPIO タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

DSUB9, DSUB15_1, DSUB15_2, DSUB15_3 の各ピンの設定が行えます。GPIO 数はモデルにより異なります。

また、機能はハードウェア仕様上選択可能なものに限定されており、ピンによって選択肢が異なります。

図 4-24 DSUB9 設定画面

・「保存」ボタン：

ボタンを押下すると、対象の機器に変更設定を反映させます。

・「取り消し」ボタン：

ボタンを押下すると、このタブでの変更が廃棄され、現在の設定に戻ります。

・ボーレート設定：

RS-232C のボーレート(bps)設定を行います。

「2400」、「4800」、「**9600**」、「19200」、「38400」、「115200」から選択します。

RS-232C を利用するためには、Pin2、Pin3 を RS-232C に設定してください。

・データサイズ設定：

RS-232C のデータサイズ設定を行います。

「CS5」(5bit)、「CS6」(6bit)、「CS7」(7bit)、「CS8」(8bit)から選択します。

・パリティ設定：

RS-232C のパリティ設定を行います。

「none」、「even」、「odd」から選択します。

・ストップビット設定：

RS-232C のストップビット設定を行います。

「1」、「2」から選択します。

4 – 1 2 – 1. DSUB9-1 (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G 以外)

Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12Gを除く Gen の DSUB9 ピンの設定可能な機能は以下の通りです。

DSUB9	Status Out	Tally In	Tally Out	Salvo	Multiview Switch	12V	RS-232C
pin1	○	○	○	○	○	○	×
pin2	○	○	○	○	○	×	○ TX
pin3	○	○	○	○	○	×	○ RX
pin4	○	○	○	○	○	×	×
pin5	×	×	×	×	×	×	×
pin6	○	○	○	○	○	×	×
pin7	○	○	○	○	○	×	×
pin8	×	×	×	×	×	×	×
pin9	×	×	×	×	×	×	×

※pin2, pin3 は RS-232C で利用する場合、ストレートケーブルでの接続を想定しています。pin2 を RS-232C 設定する場合、pin3 も RS-232C に設定する必要があります。

※pin5: GND 固定です。

※pin8: ALM 出力固定です。

※pin9: ALM COM 固定です。

4 – 1 2 – 2. DSUB9-1 (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G)

Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G の DSUB9 ピンの設定可能な機能は以下の通りです。

RS-232C 固定です。

DSUB9	Status Out	Tally In	Tally Out	Salvo	Multiview Switch	12V	RS-232C
pin1	×	×	×	×	×	×	×
pin2	×	×	×	×	×	×	○ TX
pin3	×	×	×	×	×	×	○ RX
pin4	×	×	×	×	×	×	×
pin5	×	×	×	×	×	×	×
pin6	×	×	×	×	×	×	×
pin7	×	×	×	×	×	×	×
pin8	×	×	×	×	×	×	×
pin9	×	×	×	×	×	×	×

Pin 1	機能 Tally In	▼	サブ機能 分配	▼	☐ Low Active
	分配先コネクタ GPIO2	▼	分配先のピン 2	▼	☐ レベルトリガー
Pin 2	機能 Tally Out	▼	サブ機能 分配出力	▼	☐ Low Active
					☐ レベル出力
Pin 3	機能 Tally In	▼	サブ機能 マルチビュータリー	▼	☐ Low Active
	Tally1				☐ レベルトリガー
Pin 4	機能 Salvo	▼	サブ機能 UnitMatrix	▼	☐ Low Active
					☒ エッジトリガー
Pin 5	機能 Multiview Switch	▼	サブ機能 UP	▼	☐ Low Active
					☐ レベルトリガー
Pin 6	機能 Multiview Switch	▼	サブ機能 JUMP	▼	☐ Low Active
	ジャンプ先 Multiview Preset1	▼			☐ レベルトリガー

図 4-25 DSUB15 設定画面

4 – 1 2 – 3 . DSUB15-1、DSUB15-2

DSUB15-1 あるいは DSUB15-2 の設定可能な機能は以下の通りです。

DSUB15 -1,-2	Status Out	Tally In	Tally Out	Salvo	Multiview Switch	12V	RS-232C
pin1	○	○	○	○	○	×	×
pin2	○	○	○	○	○	×	×
pin3	○	○	○	○	○	×	×
pin4	○	○	○	○	○	×	×
pin5	○	○	○	○	○	×	×
pin6	○	○	○	○	○	×	×
pin7	○	○	○	○	○	×	×
pin8	○	○	○	○	○	×	×
pin9	○	○	○	○	○	×	×
pin10	○	○	○	○	○	×	×
pin11	○	×	○	×	×	×	×
pin12	○	×	○	×	×	×	×
pin13	○	×	○	×	×	×	×
pin14	○	×	○	×	×	×	×
pin15	○	×	○	×	×	×	×

4 – 1 2 – 4. DSUB15-3 (Gen4848-12G、Gen6464-12G、Gen7272-12G)

DSUB15-3 の設定可能な機能は以下の通りです。

DSUB15 -3	Status Out	Tally In	Tally Out	Salvo	Multiview Switch	12V	RS-232C
pin1	○	○	○	○	○	×	×
pin2	○	○	○	○	○	×	×
pin3	○	○	○	○	○	×	×
pin4	○	○	○	○	○	×	×
pin5	○	○	○	○	○	×	×
pin6	○	○	○	○	○	×	×
pin7	○	○	○	○	○	×	×
pin8	○	○	○	○	○	×	×
pin9	○	○	○	○	○	×	×
pin10	○	○	○	○	○	×	×
pin11	○	×	○	×	×	×	×
pin12	○	×	○	×	×	×	×
pin13	×	×	×	×	×	×	×
pin14	×	×	×	×	×	×	×
pin15	×	×	×	×	×	×	×

※pin13: ALM 出力固定です。

※pin14: ALM COM 固定です。

※pin15: GND 固定です。

4 - 1 2 - 5 . Status Out



図 4-26 Status Out 設定画面

Gen ルーターの電源、あるいはファンに異常があるとき出力します。出力はエッジ/レベル選択と Low/High Active 選択が可能です。

4 - 1 2 - 6 . Tally In

TallyIn は Pin 入力がアクティブなとき、サブ機能により動作を選択します。

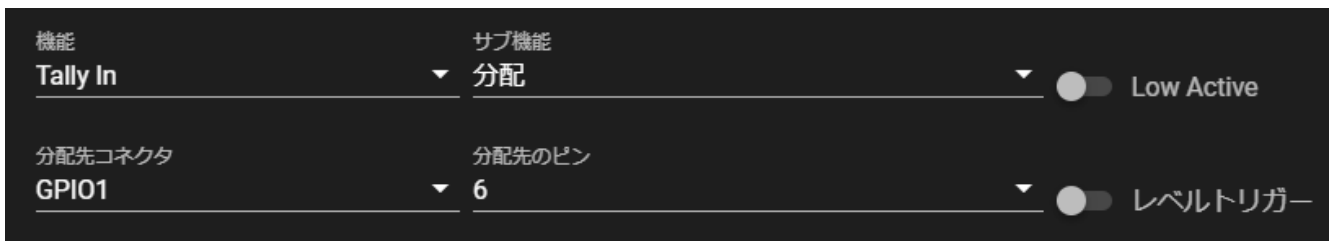


図 4-27 Tally In 設定画面

・分配:

Tally Out 信号として GPIO ピンに出力します。

ピンは複数選ぶことができます。

・マルチビュータリー:

R タリー、G タリーとして表示制御に利用することができます。

入力はエッジ/レベル選択と Low/High Active 選択が可能です。

4 - 1 2 - 7. Tally Out

Tally Out は、出力制御をサブ機能により動作を選択します。



図 4-28 Tally Out 設定画面

・分配出力:

Tally In の分配で指定されている場合、「分配出力」のみ選択可能です。

ルーターサルボの条件に一致したとき、出力します。

出力はエッジ/レベル選択と Low/High Active 選択が可能です。

4 - 1 2 - 8. Salvo

Salvo はルーターサルボを選択するもので、サブ機能でサルボ名称を選択します。

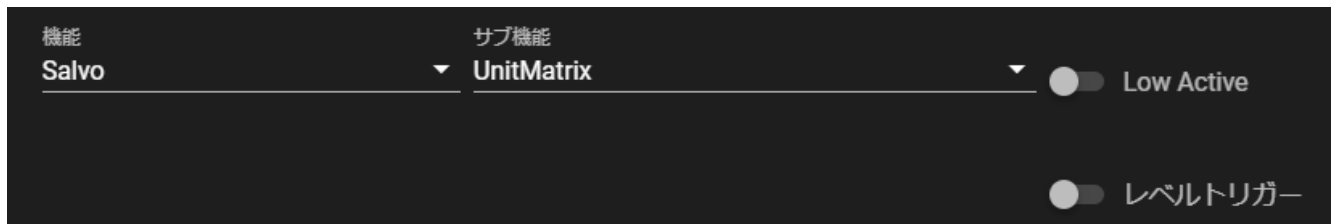


図 4-29 Router Salvo 設定画面

入力エッジ/レベル選択と Low/High Active 選択が可能です。

4 – 1 2 – 9 . Multiview Switch

Multiview Switch はマルチビュー画面の Preset を変更するものです。



図 4 -30 Multiview Switch 設定画面

・サブ機能：

以下の動作を選択します。

UP	次の Multiview Preset を表示します。最後の Preset 値にいる場合、最初の Preset 値になります
DOWN	前の Multiview Preset を表示します。最初の Preset 値にいる場合、最後の Preset 値になります
JUMPTO	指定された番号の Multiview Preset を表示します。Preset 数より大きな値を設定した場合、最後の Preset 値になります

入力はエッジ/レベル選択と Low/High Active 選択が可能です。

4 - 1 3 . マトリックス分割 タブ

マトリックス分割タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

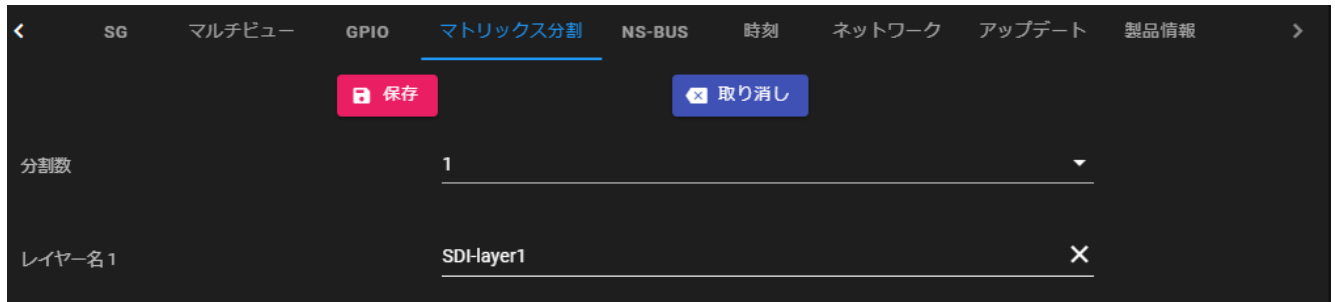


図 4 -31 マトリックス分割設定画面

・分割数：

Router を複数レイヤーに区切ることができます。現バージョンでは 1 のみ対応です。

・レイヤー名 1:

レイヤー名称をつけます。半角英数字 16 文字、漢字 8 文字まで設定が可能です。

本ラベルは DualJog などの LCD 付きコントロールパネルの接続先表示に使用します。

4 - 1 4 . NS-BUS タブ

NS-BUS タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

The screenshot displays the NS-BUS configuration interface. At the top, a navigation bar contains links for SG, マルチビュー, GPIO, マトリックス分割, NS-BUS (highlighted), 時刻, ネットワーク, アップデート, and 製品情報. Below the navigation bar, there are two buttons: a red '保存' (Save) button and a blue '取り消し' (Cancel) button. The main configuration area includes a toggle switch for 'NS-BUS 設定' (NS-BUS Setting) which is currently turned on. Below this, there are several input fields: 'マニフェストURLポート' (Manifest URL Port) with the value 9780 and a note 'Default 9780'; 'NS-BUSサーバーポート' (NS-BUS Server Port) with the value 9722 and a note 'Default 9720'; 'プロトコル' (Protocol) set to TCP; 'デバイスID' (Device ID) with the value df4780c9-c0b5-44e0-8981-aac3857; 'マトリクスID' (Matrix ID) with the value 96c941b9-4000-43d9-825c-3de4adc8; '説明' (Description) with the value Gen NS-BUS Router Matrix application; 'メーカー名' (Manufacturer Name) with the value CosmicEngineering; and 'デバイス名' (Device Name) with the value Gen NS-BUS Router Device.

図 4-32 NS-BUS 設定画面

・NS-BUS 設定：

NS-BUS を利用する場合、有効に設定してください。

・マニフェスト URL ポート：

NS-BUS のマニフェストファイルを取得するポート番号を指定します。

・NS-BUS サーバーポート：

NS-BUS LSM と Gen ルーターの通信ポートを設定します。

・プロトコル：

TCP のみ対応します。

・デバイス ID:

Gen ルーターの UUID です。予め個体ごとに異なる値が設定されています。

・マトリクス ID:

Gen ルーターのレイヤーの UUID です。予め個体、レイヤーごとに異なる値が設定されています。

・説明：

・メーカー名：

・デバイス名：

NS-BUS 接続時に、LSM(Live System Manager Station)に通知する Gen ルーターの諸元です。

4-15. 時刻 タブ

時刻タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

図 4-33 時刻設定画面

・「保存」ボタン：

ボタンを押下すると、対象の機器に変更設定を反映させます。

・「取り消し」ボタン：

ボタンを押下すると、このタブでの変更が廃棄され、現在の設定に戻ります。

・時刻同期：

「有効」の場合、NTP、LTC などの時刻情報から時刻を設定します

「無効」の場合、手動 日時の変更により日時を Gen に設定することができます。

・同期方式：

「NTP」、「LTC」、「LTC-with-date」から選択します。

・NTP サーバー1~4 :

方式に「NTP」を選択した場合、使用する NTP サーバーを指定します。

最大 4 箇所までサーバーを指定できます。

「削除」ボタンを押下すると設定行の NTP サーバー設定を削除します

「追加」ボタンを押下すると設定行の下に NTP サーバーを設定する行を追加します。

・LTC ソース :

方式に「LTC」、「LTC-with-date」を選択した場合、時刻検出を行う SRC を選択します。

・日付フォーマット :

方式に「LTC-with-date」を選択した場合、日付 Format を「Leitch」、「SMPTE ST309」から選択します。

・「GEN に設定」ボタン :

ボタンを押下すると、ボタン下の設定時刻を Gen に設定します。

・「現在時刻取得」ボタン :

ボタンを押下すると、PC の現在時刻を設定時刻項目にコピーします。

4 - 1 6 . ネットワーク タブ

ネットワーク タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

CP-LAN	
MACアドレス	00:0d:c7:46:01:0c
IPアドレス	192.168.0.30
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
優先DNSサーバー	
代替DNSサーバー	

MG-LAN	
MACアドレス	00:0d:c7:46:01:0d
IPアドレス	192.168.1.30
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
優先DNSサーバー	

図 4 -34 ネットワーク設定画面

CP-LAN, MG-LAN のネットワーク設定を行うことができます。

設定を変更し、保存ボタンを押下すると本体に保存されネットワーク設定を再設定します。

保存・適用には数秒間かかり、その間イーサネットを使用した通信はできなくなります。

MG-LAN の IP アドレスを変更した場合、保存後は新しい IP アドレスを指定し接続しなおす必要があります。

また、保存せずに取り消しボタンを押下すると現在の設定値に戻ります。

4 - 17. アップデート タブ

アップデート タブを押下すると、以下のような画面が表示されます。

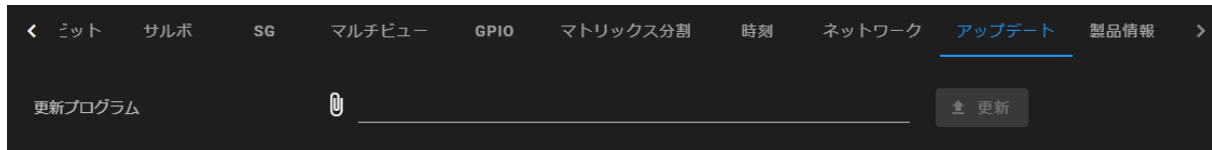


図 4-35 アップデート設定画面

・更新プログラム：

アップデートに使用するファイルを選んで、更新ボタンを押下するとプログラムが更新されます。

FPGA のアップデートの場合、数分かかります。

4 - 1 8 . 製品情報 タブ

製品情報 タブを押下すると、以下のタブが表示されます。

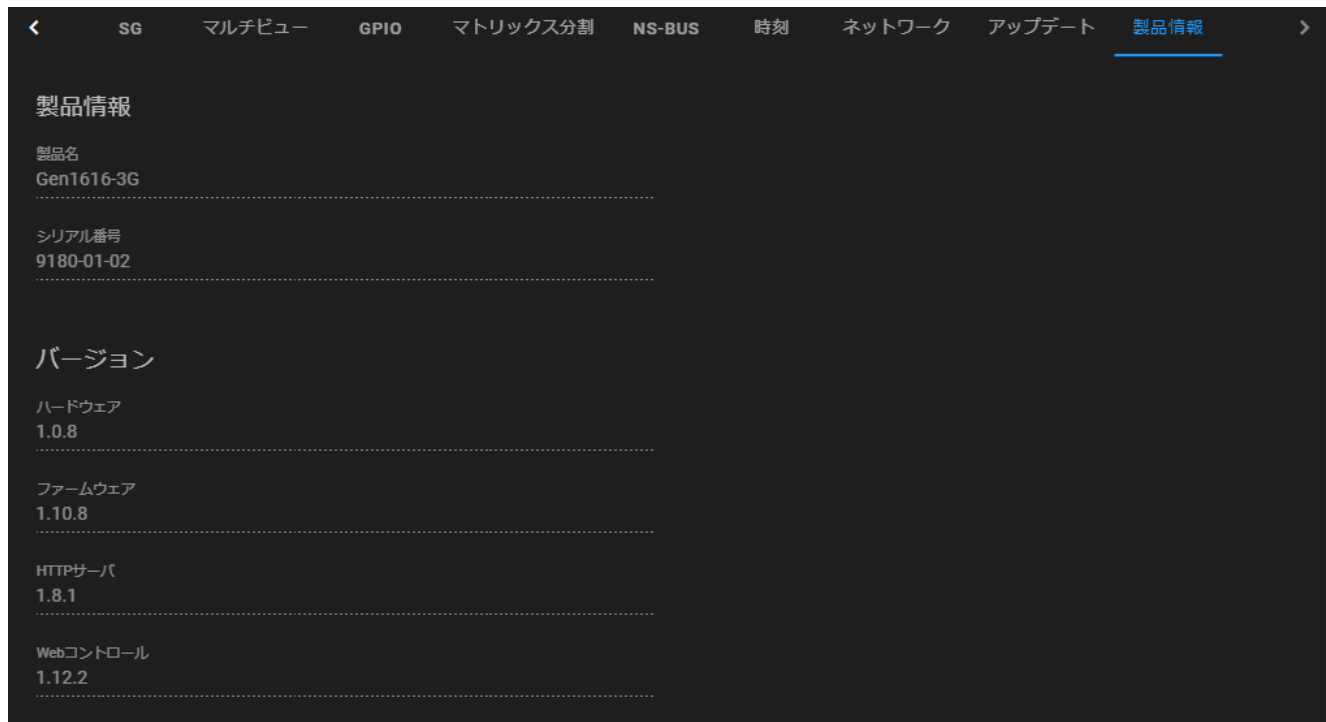


図 4 -36 製品情報 画面

・製品名：

製品名が表示されます。

・シリアル番号：

製品シリアル番号が表示されます。

・ハードウェア：

ハードウェア バージョンが表示されます。

・ファームウェア：

ファームウェア バージョンが表示されます。

・HTTP サーバー：

HTTP サーバーソフトウェア バージョンが表示されます。

・WEB コントロール：

WEB コントロールソフトウェア バージョンが表示されます。

5. オーディオ系ルーターの設定

オーディオ系ルーターでは、ステータスタブ、入力ステータスタブ、一般タブ、SG タブ、レート変換タブがビデオ系ルーターと異なりますが、それ以外はビデオ系ルーターと同じ内容が表示されます。

5 - 1. ステータス タブ

ステータス タブを押下すると、以下のタブが表示されます。



図 5-1 オーディオ系ルーター：ステータス 画面

オーディオ系ルーターは全機種ファン非搭載のため、ファン項目はありません。そのため、コントロールパネルの ALM LED も点灯しません。

- ・電源 A,B : 電源 A,B の 12V 出力の状態と出力電圧値を表示します。
- ・CPU 温度 : 搭載 CPU の温度状態と温度を表示します。
- ・FPGA 温度 : 制御 FPGA (搭載デバイス) のチップ内温度の状態と、温度を表示します。

5 - 2. 入力ステータス タブ

入力ステータス タブを押下すると、以下のタブが表示されます。

< ステータス <u>入力ステータス</u> クロスポイント 一般 ラベル インヒビット サルボ SG レート変換 GPII >			
入力		ステータス	フォーマット
AES-layer1	Reference	Lock	525I59
	1: Source01	Lock	48kHz
	2: Source02	Lock	48kHz
	3: Source03	Lock	48kHz
	4: Source04	Lock	48kHz
	5: Source05	Unlock	—
	6: Source06	Unlock	—
	7: Source07	Unlock	—
	8: Source08	Unlock	—

図 5-2 オーディオ系ルーター:入力ステータス画面

リファレンス入力、ソース入力の状態を表示します。

リファレンス入力は BB/TriSync 入力時は、ビデオフォーマットを表示し、DARS 入力時は DARS サンプリング周波数を表示します。

それぞれ、信号にロックした場合は Lock、ロックできなかったときは Unlock と表示されます。

ソース入力は、サンプリング周波数と、AES/EBU 信号の Lock/Unlock 状態を表示します。

5 - 3 . 一般 タブ

一般 タブを押下すると、以下のタブが表示されます。

SNMP 設定/設定のバックアップ・復元、ログ取得についてはビデオ系ルーターを参照してください。

図 5-3 オーディオ系ルーター：一般設定画面

・ルーター名称：

ルーター名称が設定できます。初期設定値は、ルーターモデル名 + MAC アドレス下位 2 桁です。

・ルーターID：

ルーターの ID を設定します。

Gen システムでのルーターID は、ルーターの識別子として使用されますので、同じネットワーク内では、重複しない ID を設定します。

設定できる ID は 0～5 で、初期設定は 0 です。

設定変更後、保存ボタンを押下することにより、ルーターに設定が保存されます。

・サンプリング周波数：

同期モード時のサンプリング周波数を設定します。

設定できるサンプリング周波数は「48kHz」、「96kHz」です。

リファレンスが DARS の場合は、出力サンプリング周波数は DARS と同じ周波数になりますが、60kHz 以下では「48kHz」に、60kHz を越える場合は「96kHz」に設定してください。

・切替モード：(Plain 以外の AES ルーター)

「同期モード」、「非同期モード」を選択します。

「非同期モード」は、入力された信号を単純に切り替えるためノイズが出力されることがあります。

「同期モード」では、全ての入力をデコードし、クロスポイント切替時に、フェードアウト処理を行い、無音になった状態で信号を切り替え、フェードイン処理を行います。

このため、切り替え時ノイズが発生しません。同期モードではすべての入力がリファレンス信号に同期している必要があります。

レート変換回路が 16 回路搭載されていますので非同期信号はレート変換回路を有効にすることで同期化することができます。

レート変換の設定についてはレート変換タブを参照してください。

5 - 4. SG タブ

SG タブを押下すると、以下のタブが表示されます。

< クロスポイント 一般 ラベル インヒビット サルボ グループ クロスポイント **SG** レー >

保存 取り消し

オシレータラベル (漢字8文字) Test Tone

オシレータ概略ラベル (漢字4文字) OSC

無音ラベル (漢字8文字) Silent

無音概略ラベル (漢字4文字) mute

オシレータパラメータ

CH1 レベル (-63=無音)	-20	dBFS ▼
CH1 周波数	1kHz	▼
CH2 レベル (-63=無音)	-20	dBFS ▼
CH2 周波数	1kHz	▼

図 5-4 オーディオ系ルーター: SG 設定画面

・オシレータラベル(漢字 8 文字) :

コントロールパネルで SG を選択したときのラベル名称を設定します。半角英数字 16 文字、漢字 8 文字まで設定が可能です。

・オシレータ概略ラベル(漢字 4 文字) :

コントロールパネルで SG を選択したときの概略ラベル名称を設定します。半角英数字 8 文字、漢字 4 文字まで設定が可能です。

・無音ラベル(漢字 8 文字) :

コントロールパネルで無音を選択したときのラベル名称を設定します。半角英数字 16 文字、漢字 8 文字まで設定が可能です。

・無音概略ラベル(漢字 4 文字) :

コントロールパネルで無音を選択したときの概略ラベル名称を設定します。半角英数字 8 文字、漢字 4 文字まで設定が可能です。

・CH1 レベル :

-63～0 dBFS の範囲で選択できます。**-63** を選択するとミュートになります。

・CH1 周波数 :

「400Hz」、「800Hz」、「1kHz」、「2kHz」から選択可能です。

・CH2 レベル :

-63～0 dBFS の範囲で選択できます。**-63** を選択するとミュートになります。

・CH2 周波数 :

「400Hz」、「800Hz」、「1kHz」、「2kHz」から選択可能です。

5 - 5. レート変換 タブ

レート変換 タブを押下すると、以下のタブが表示されます。



図 5-5 オーディオ系ルーター:レート変換設定画面

・「保存」ボタン：

ボタンを押下すると、対象の機器に変更設定を反映させます。

・「取り消し」ボタン：

ボタンを押下すると、このタブでの変更が廃棄され、現在の設定に戻ります。

レート変換を行うソースを押下することによりレート変換を有効に設定します。

✓マークが入っているソースがレート変換有効で、チェックマークの入っていないソースはレート変換が無効に設定されています。

レート変換は最大 16 ソースまで設定できます。

6. コントロールパネルの設定

例は DualJog ですが、LCD16、LCD32、TT32、TTDualJog、Standard32、Standard16、TT8 が同様に設定可能です。

6-1. 一般 タブ

一般 タブを押下すると、DualJog の場合、以下のタブが表示されます。

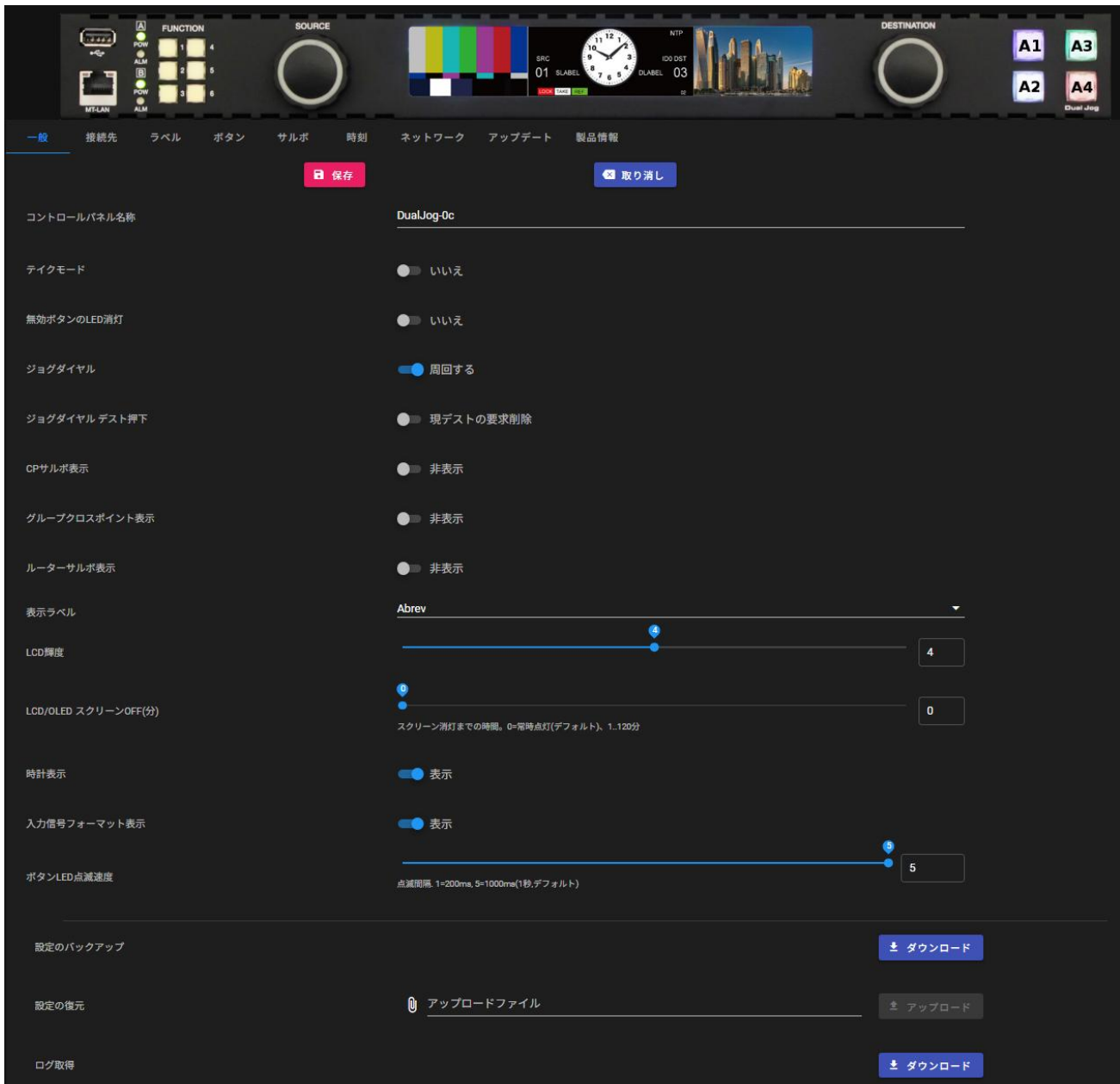


図 6-1 DualJog 一般設定画面

・「保存」ボタン：

ボタンを押下すると、対象の機器に変更設定を反映させます。

・「取り消し」ボタン：

ボタンを押下すると、このタブでの変更が廃棄され、現在の設定に戻ります。

・コントロールパネル名称：

コントロールパネルに任意の名前をつけることができます。半角英数字 16 文字、漢字 8 文字の範囲で設定してください。
初期設定値はモデル名称 + MAC アドレス下位 2 桁です。

・テイクモード：

「はい」を選択したとき、TAKE ボタンを押下することによりルーターに未発行のクロスポイントコマンドを送信します。

複数のクロスポイント設定変更し、まとめて切り替えることができます。

「いいえ」を選択するとルーターのクロスポイント設定変更した時点でクロスポイントコマンドを送信します。

ロータリーエンコーダで Source、Destination を選択するコントロールパネルの場合、左側のロータリーエンコーダで Source を選択し、押下するとクロスポイントコマンドが送信されます。

TAKE モードが有効なとき、LCD 搭載のコントロールパネルは画面上に「TAKE」が表示されます。

・無効ボタンの LED 消灯：

「はい」を選択すると、押下しても機能しないボタンが消灯されます。

例えば、パネルロックを設定すると、パネルロック解除と現在有効な設定のボタン以外は消灯します。

・ロータリーエンコーダ (DualJog/TTDualJog)：

Source、Destination のロータリーエンコーダがそれぞれの最初、最後にあるときの動作設定を行います。

「周回する」のとき、最初→最後、最後→最初と Source、Destination 番号が周回します。

「終端で止まる」のときは、周回はしません。

・ロータリーエンコーダ デスト押下(DualJog/TTDualJog)：

Destination のロータリーエンコーダ押下時の動作設定を行います。

「現デストの要求削除」のとき、テイクモードで現在未発行のクロスポイントコマンドがある場合、キャンセルします。

「次のグループに移動」のとき、接続先 1 のクロスポイント設定、接続先 1 のルーターサルボ設定、接続先 2 のクロスポイント設定、接続先 2 のルーターサルボ設定、DualJog の CP サルボ設定の順でグループを移動します。

CP サルボ表示、ルーターサルボ表示がない場合、それぞれのグループはロータリーエンコーダには表示されません。

・CP サルボ表示(DualJog/TTDualJog)：

「表示しない」のとき、ロータリーエンコーダで CP サルボリストを表示しません。

「表示する」のとき、ロータリーエンコーダで CP サルボリストを表示します。

・グループクロスポイント表示(DualJog/TTDualJog)：

「表示しない」のとき、ロータリーエンコーダでグループ クロスポイント選択を表示しません。

「表示する」のとき、ロータリーエンコーダでグループ クロスポイントを表示します。

グループ クロスポイントの表示は接続ルーターのグループ クロスポイントの LINK 数、ソース順、デスト順に表示されます。

・ルーターサルボ表示(DualJog/TTDualJog)：

「表示しない」のとき、ロータリーエンコーダでルーターサルボリストを表示しません。

「表示する」のとき、ロータリーエンコーダでルーターサルボリストを表示します。

コントロールパネルが複数のルーターに接続されている場合、全てのルーターの表示を行わないか、行うかの設定となります。

個別のルーターごとに表示設定はできません。

・表示ラベル：

クロスポイント一覧表示モードのときの表示設定を行います。

Number	SRC、DEST の番号で表します
Abbrev	概略ラベルで表します 半角英数字 8 文字、漢字 4 文字まで利用可能です
Normal	ラベルで表します 半角英数字 16 文字、漢字 8 文字まで利用可能です

・LCD 輝度：

LCD の明るさを 1 ～ 8 の 8 段階で調整します。1 が最も暗く、8 が最も明るくなります。

・LCD/OLED スクリーン OFF(分)：

最後に操作をしてから、指定分後に LCD/OLED 表示を OFF にします。0 は常時点灯、1～120 分の間で設定することが可能です。

スクリーン OFF のとき、ロータリーエンコーダやボタンを操作すると、点灯状態に戻ります。

・時計表示

DualJog/LCD32/LCD16/TTDualJog/TT32 の LCD 時計表示を ON/OFF します。

NTP/LTC など時刻ソースがない環境で使用する場合、OFF にすることで現時刻と異なる表示を抑制します。

・入力信号フォーマット表示：

DualJog/LCD32/LCD16/TTDualJog/TT32 の入力信号フォーマット表示を ON/OFF します。

・ボタン LED 点滅速度：

テイクモードで未発行のクロスポイントがある場合のボタン LED の点滅速度を設定します。1(200ms)～5(1 秒)間隔で点滅します。

・設定のバックアップ：

現在のコントロールパネル設定を保存します。

・設定の復元：

設定のバックアップで保存されたファイルを用いて、設定を復元します。ファイル選択後、アップロードボタンを押してください。

・ログ取得：

コントロールパネルから発行したコマンドや内部設定変更のログが取得できます。

コントロールパネルのログは揮発メモリ上で保存しているため、電源 on/off やリブートで消失します。

6-2. 接続先 タブ

接続先 タブを押下すると、以下の画面が表示されます。



図 6-2 接続先設定画面 1

追加するルーター選択し、追加ボタンを押下するとルーターが追加され、削除するルーターを選択し、削除ボタンを押下するとルーターが削除されます。

追加したルーターを押下するとルーターの詳細設定画面が表示されます。

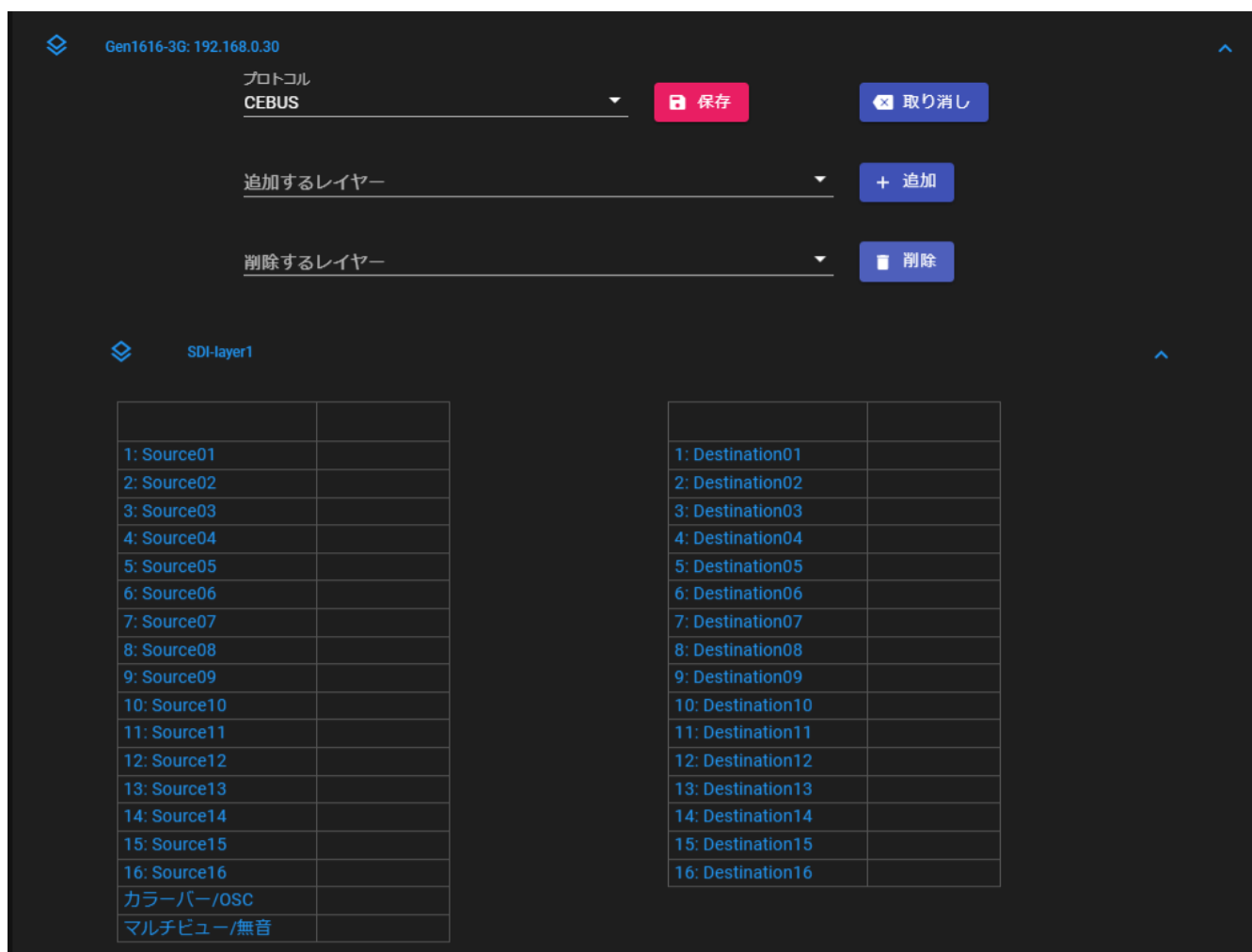


図 6-3 接続先設定画面 2

・プロトコル：

接続先ルーターとのプロトコルを指定します。

Gen ルーター、コントロールパネルの通信プロトコルである CEBUS のみ選択できます。

・レイヤー：

指定レイヤーのソース、Destination に対して本コントロールパネルからの操作をインビット（禁止）設定することができます。

インビットに設定する、ソース番号、Destination 番号を押下し、インビット設定にし、再度押下することによりインビット設定を解除できます。

6 - 3. ラベル タブ

ラベル タブを押下すると、以下の画面が表示されます。



図 6-4 ラベル設定画面

- ・ルーターのラベル設定と同様の設定ができます。
- ・コントロールパネルでラベル設定を行った場合、ルーターのラベル設定より優先して使用されます。
- ・コントロールパネルのラベルを使用する際は、全てのソース、デスティネーションにラベル名を設定してください。空欄のソース、デスティネーションは表示されません。

6-4. ボタン タブ

ボタン タブを押下すると、以下のタブが表示されます。

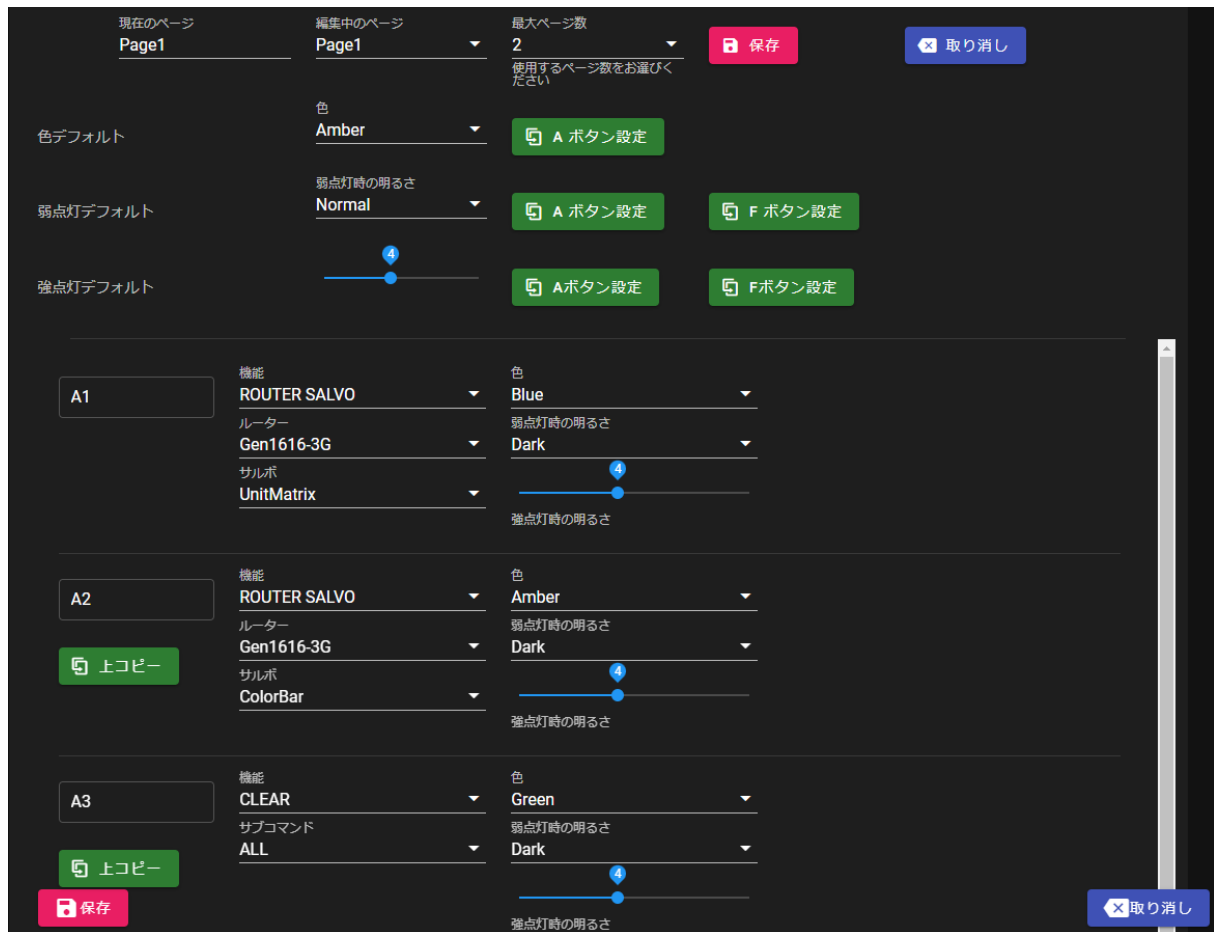


図 6-5 ボタン設定画面

現在のページにコントロールパネルの現在のページ番号が表示されます。

まず、最大ページ数に本コントロールパネルで使用するページ数を選択します。

最大ページ数は、コントロールパネルによって異なります。

最大ページ数	機種名
32	DualJog, LCD16, LD32, OLED18, TTDualJog, TT32
6	Standard16, Standard32, TT8

次に編集中のページに、設定するページを選択し、各ボタンの設定をページごとに行います。

設定変更後、「保存」ボタンを押下することにより、コントロールパネルに設定が保存されます。

「取り消し」ボタンを押下すると、保存前の設定状態に戻ります。

・色デフォルト：

・弱点灯デフォルト：

・強点灯デフォルト：

A ボタン群、B ボタン群、F ボタン群などのデフォルト設定を行うものです。

色デフォルト Amber を指定し、A ボタン設定を押下すると、A ボタン全ての色が Amber に変更されます。

変更を反映させるためには、保存ボタンを押下してください。

・「上コピー」ボタン：

上のボタン設定をコピーするものです。A2 ボタン下の上コピーボタンを押下すると、A1 ボタンの内容がコピーされます。

設定を反映させるためには、保存ボタンを押下してください。

・機能

各ボタンに対して設定できる機能一覧を以下に示します。

機能	内容
NONE	割り当て機能なし
BUS	指定 Destination に指定ソースを割り当てます。ルーター、レイヤー、LINK 数、Source、Destination を設定します。Source、Destination はルーターのラベル名が番号と共に表示されます。
CP SALVO	指定したコンパネサルボを実行します。登録されているサルボ名を設定します。
ROUTER SALVO	指定したルーターサルボを実行します。ルーターID、登録されているサルボ名を設定します。
DEST N	Destination 番号を指定。
SRC N	ソース番号を指定。
DEST	NUMBER で設定されたボタンを Destination に割り当てます。
SRC	NUMBER で設定されたボタンを Source に割り当てます。
NUMBER	Source 番号、又は、Destination 番号を指定します。 この機能を利用する場合、別途、SRC、DEST 機能をいずれかのボタンに割り当てることが必要です。 NUMBER を指定した場合、ボタン色、明るさの設定は SRC、DEST の設定に準拠します。 例えば、SRC に Amber を選択している場合、SRC ボタンを押下すると、NUMBER ボタンは全て Amber になります。
CLEAR	操作をクリアします。全操作をクリア（ALL）するか、現在表示しているコマンドをクリアするか（CURRENT）指定します。
TAKE	クロスポイントを切り替えます。テイクモード時に有効となり、テイクモードオフ時にはクロスポイントを切り替えるごとに強点灯後、自動で弱点灯になります。
TAKE MODE SWITCH	押下する度にテイクモードをオン、オフします。テイクモード時は強点灯します。 ※コントロールパネルの電源投入時の設定は一般タブのテイクモード設定となります。
PANEL LOCK	押下する度にパネルロック状態と通常状態を切り替えます。パネルロック状態では、強点灯します。

機能	内容
DEST LOCK	押下する度に Destination ロック状態と通常状態を切り替えます。Destination ロック状態では、強点灯します。本コントロールパネルで現在選択している Destination を本コントロールパネルからの操作をロックする LOCK_LOCAL、本コントロールパネルで現在選択している Destination を他のコントロールパネルからの操作をロックする LOCK_OTHER、本コントロールパネルで現在選択している Destination を全コントロールパネルからの操作をロックする LOCK_ALL を設定します。
DEST LOCK N	押下する度に指定した Destination 番号をロック状態と通常状態を切り替えます。Destination ロック状態では、強点灯します。ルーター、レイヤー、ロックモード、Destination 番号を設定します。
PAGE	ページを変更します。UP、DOWN、JUMP のいずれかを選択し、JUMP の時は、ジャンプするページを設定します。JUMP が選択された場合、選択されたページの場合、LED はハイライトになります。
MVU PRESET	接続先がビデオ系ルーターでマルチビュー機能がある場合、マルチビューのプリセット番号を切り替えます。 UP、DOWN、JUMP のいずれかを選択し、JUMP の時は、ジャンプするプリセット番号を設定します。 例えばルーターが 3 つのプリセットを持つ場合、以下のような動作となります。 UP: PRESET1 → PRESET2 → PRESET3 → PRESET1 DOWN: PRESET1 → PRESET3 → PRESET2 → PRESET1 JUMPTO: PRESET1、PRESET2、PRESET3 のいずれかを指定。PRESET4 を指定した場合、最大値の PRESET3 が設定されます。 JUMP を選択した場合、マルチビューのプレイセット番号が現在表示されている場合、ハイライトになります。
DISP MODE	押下する度に表示モードを切り替えます。UP、DOWN、JUMP のいずれかを選択し、JUMP の時は、ジャンプする表示モードを設定します。
TEST ASG	Plain モデルを除くオーディオルーターの SG(内蔵オシレータ)の CH1、CH2 を独立して ON/OFF/TOGGLE を割り当てることができます。 TOGGLE を設定した場合、ボタン押下ごとに ON→OFF→ON となります。

6-4-1. BUS コマンド

機能 BUS を選択すると以下のような設定画面となります。

図 6-6 BUS コマンド設定画面

・色:

ボタン色を選択します。

OLED18 は Green(緑)、Red(赤)、Amber(黄)、Blue(青)、Purple(紫)、Cyan(水色)、White(白)の 7 色から選択します。

それ以外のコントロールパネルは Green(緑)、Red(赤)、Amber(黄)、Blue(青)の 4 色から選択します。

・弱点灯時の明るさ:

「Normal」、「Dark」から選択します。

・強点灯時の明るさ:

1～8 の明るさから選択します。1 が最も暗く、8 が最も明るさとなります。

・ルーター :

接続先タブで設定したルーターから一覧が表示されるため設定したいルーターを選択してください。

・レイヤー :

現バージョンでは選択できません。表示されている設定のままにしてください。

・LINK 数:

通常のクロスポイント設定は 1、Dual-Link は 2 を選択してください。

1 以外の選択をする場合、接続ルーターのグループ クロスポイント設定で LINK 数のグループ ソース/デストが予め設定されていることが必要です。

・ソース:

クロスポイント設定するソース番号を選択してください。

LINK 数 1 の場合、接続ルーターのソース数 + カラーバー、マルチビューなどの内蔵信号が選択できます。

LINK 数 2 以上の場合、接続先ルーターのグループ クロスポイント設定により選択が変わります。

接続先ルーター グループクロスポイント設定を変更した場合、PC の「F5」キーを押下し、情報の再ロードを行ってからボタン設定を行ってください。

・デスト:

クロスポイント設定するデスト番号を選択してください。

LINK 数 1 の場合、接続ルーターのデスト数が選択できます。

LINK 数 2 以上の場合、接続先ルーターのグループ クロスポイント設定により選択が変わります。

接続先ルーター グループクロスポイント設定を変更した場合、PC の「F5」キーを押下し、情報の再ロードを行ってからボタン設定を行ってください。

・OLED 表示タイプ (OLED18 のみ):

「String」(図 6-6)、「RouterLabel」(図 6-7)から選択可能です。

「String」はユーザーが「OLED label1」、「OLED label2」に設定した文字列を表示します。

「RouterLabel」は接続ルーターの概略ソースラベル、概略デスティネーションラベルで設定したラベル名をそれぞれ Source/Destination で選択したとき表示します。

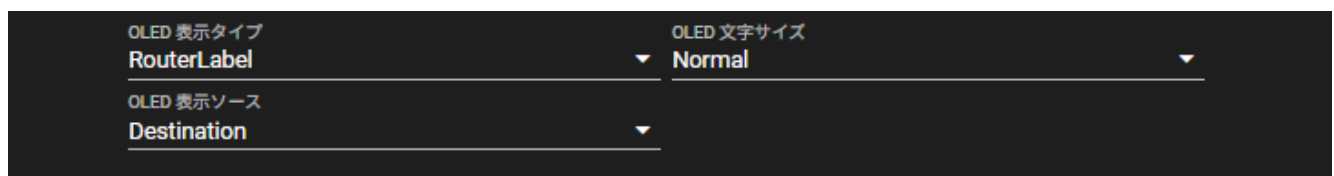


図 6-7 OLED18 RouterLabel 選択画面

・OLED 文字サイズ(OLED18 のみ):

「Small」、「Normal」、「Large」から選択します。

Small	1 行あたり半角英数字 8 文字漢字 4 文字。1 行あるいは 2 行表示が可能です
Normal	1 行あたり半角英数字 6 文字漢字 3 文字。1 行あるいは 2 行表示が可能です
Large	1 行あたり半角英数字 4 文字漢字 2 文字。1 行あるいは 2 行表示が可能です

・OLED label1(OLED18 のみ):

1 行目のラベル文字列を設定します。文字数は OLED 文字サイズの設定に依存します。

・OLED label2 (OLED18 のみ):

1 行目のラベル文字列を設定します。文字数は OLED 文字サイズの設定に依存します。

・追加ボタン (OLED18 のみ):

表示行が 1 行の場合、2 行目の設定を行いたい場合、このボタンを押下します。

2 行表示の場合、以下のような画面になります。

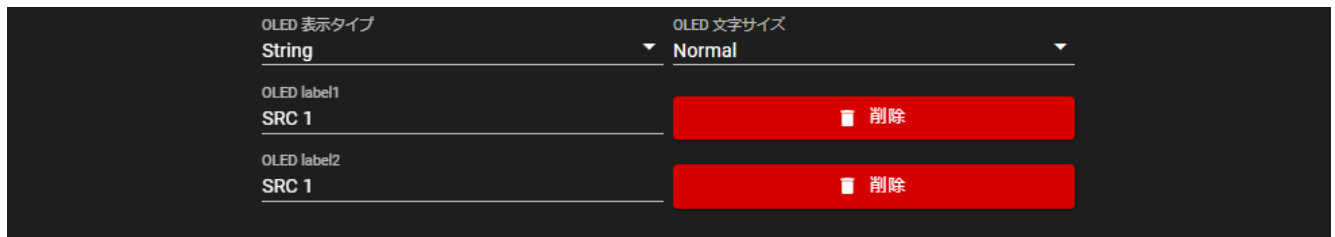


図 6-8 OLED ラベル表示画面

・削除ボタン(OLED18 のみ):

OLED 表示行が 2 行の場合、OLED label1、OLED label2 の横の削除ボタンを押下することで、label1 あるいは label2 のラベル行を削除し、ラベル数を 1 行にすることができます。

6－4－2．DEST N コマンド

機能 DEST N を選択すると以下のような設定画面となります。

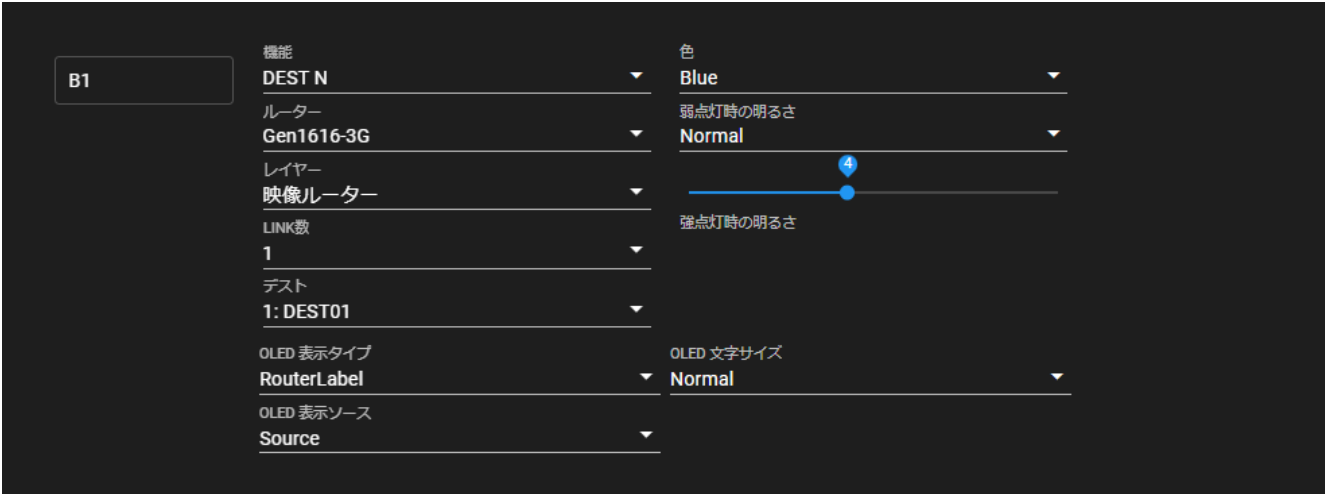


図 6-9 DEST N 設定画面

- ・色:
- ・弱点灯時の明るさ :
- ・強点灯時の明るさ:
- ・ルーター:
- ・レイヤー:
- ・LINK 数:
- ・デスト :

BUS コマンドを参照してください。

・OLED 表示タイプ (OLED18 のみ):

「String」、「Router Label」から選択します。

「Router Label」を選択した場合、OLED 表示ソースに従って文字列が表示されます。

・OLED 表示ソース (OLED18 のみ):

「Source」、「Destination」から選択します。

Source	DEST N が選択しているソース番号のラベル名を表示します。 1 行に収まらないときは 2 行表示になります
Destination	DEST N のラベル名を表示します。1 行に収まらないときは 2 行表示になります

6－4－3．SRC N コマンド

機能 SRC N を選択すると以下のような設定画面となります。

本ボタン押下前に DEST N など、接続先ルーター、レイヤー、LINK 数、DEST 番号情報が持ったボタンが押下されている必要があります。

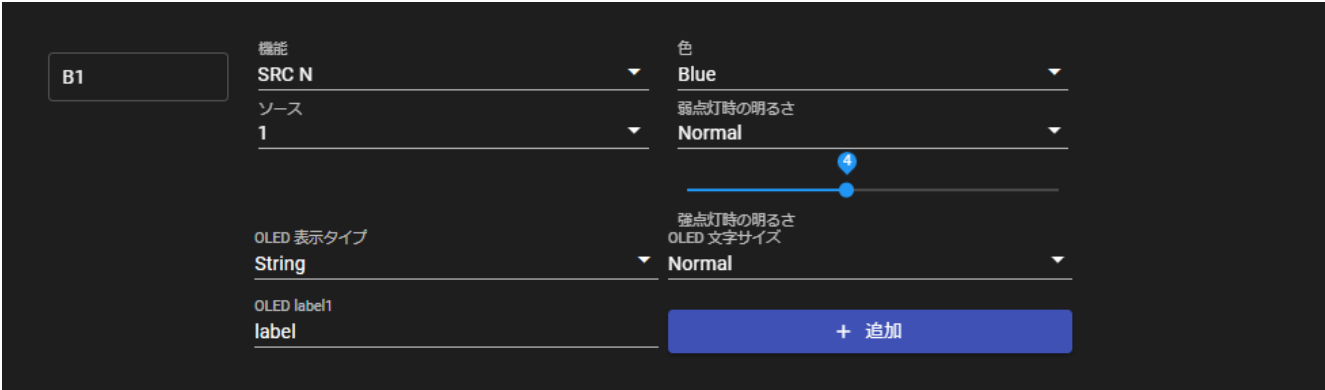


図 6-10 SRC N 設定画面

- ・色:
- ・弱点灯時の明るさ：
- ・強点灯時の明るさ:
- ・OLED 文字サイズ(OLED18 のみ):
- ・OLED label1(OLED18 のみ):
- ・OLED label2(OLED18 のみ):
- ・追加ボタン (OLED18 のみ):

BUS コマンドを参照してください。

- ・ソース:
- ソース番号を選択します。

- ・OLED 表示タイプ (OLED18 のみ):
- 「String」、「Router Label」から選択します。

String	OLED label1、OLED label2 で設定された文字列が表示されます
Router Label	ルーターで設定されたソース ラベル名が表示されます。 LINK 数 2 以上の場合は、グループ クロスポイント設定のラベル名が表示されます

6-4-4. DEST コマンド

機能 DEST を選択すると以下のような設定画面となります。

DEST コマンド押下後、NUMBER コマンドを押下することで、DEST N と同等の設定となります。

「保存」ボタンを押下後、対象のコントローラーの DEST ボタンを押下すると NUMBER ボタンにも設定が反映されます。

図 6-11 DEST 設定画面

- ・色:
- ・弱点灯時の明るさ :
- ・強点灯時の明るさ:
- ・ルーター:
- ・レイヤー:
- ・LINK 数:
- ・OLED 文字サイズ(OLED18 のみ):
- ・OLED label1(OLED18 のみ):
- ・OLED label2(OLED18 のみ):
- ・追加ボタン (OLED18 のみ):

BUS コマンドを参照してください。

- ・OLED 表示タイプ (OLED18 のみ):

“String”のみ選択可能です。

6-4-5. SRC コマンド

機能 SRC を選択すると以下のような設定画面となります。

本ボタン押下前に DEST N など、接続先ルーター、レイヤー、LINK 数、DEST 番号情報が持ったボタンが押下されている必要があります。

「保存」ボタンを押下後、対象のコントローラーの SRC ボタンを押下すると NUMBER ボタンにも設定が反映されます。

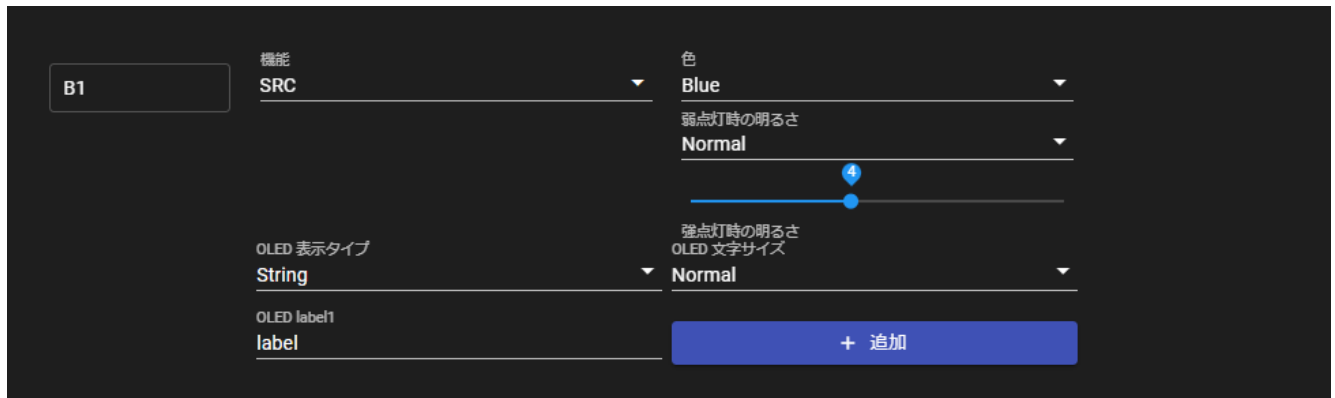


図 6-12 SRC 設定画面

- ・色:
- ・弱点灯時の明るさ:
- ・強点灯時の明るさ:
- ・OLED 文字サイズ(OLED18 のみ):
- ・OLED label1(OLED18 のみ):
- ・OLED label2(OLED18 のみ):
- ・追加ボタン (OLED18 のみ):

BUS コマンド参照してください。

・OLED 表示タイプ (OLED18 のみ):

「String」のみ選択可能です。

DEST、SRC、NUMBER コマンドを利用したクロスポイント設定

DEST → NUMBER # D → SRC → NUMBER # S と押下することで、DEST に設定された接続ルーターへのクロスポイントコマンドを発行します。

6-4-6. NUMBER コマンド

機能 NUMBER を選択すると以下のような設定画面となります。

本ボタン押下前に DEST 、SRC コマンドのいずれかが予め押下されている必要があります。

図 6-13 NUMBER 設定画面

- ・色:
- ・弱点灯時の明るさ:
- ・強点灯時の明るさ:

これらの設定項目は DEST、SRC で設定された値が適用されますので、設定変更は無効となります。

- ・OLED 文字サイズ(OLED18 のみ):
- ・OLED label1(OLED18 のみ):
- ・OLED label2(OLED18 のみ):
- ・追加ボタン (OLED18 のみ):

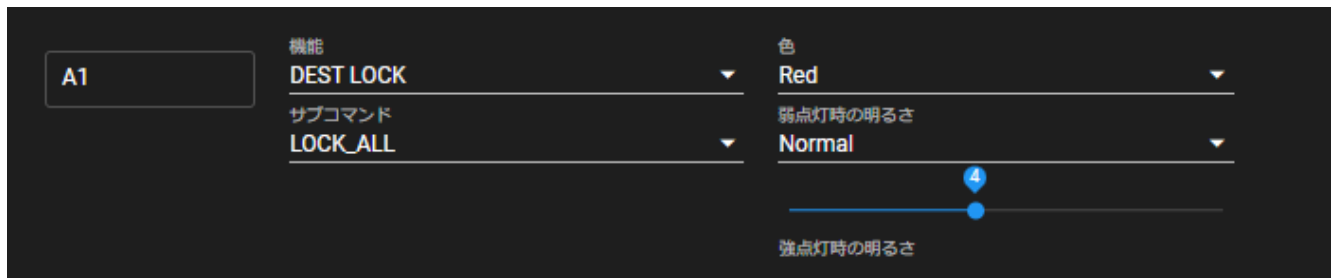
BUS コマンド参照してください。

- ・番号:
- テスト番号やソース番号の指定を行います。

- ・OLED 表示タイプ (OLED18 のみ):
- 「String」のみ選択可能です。

6-4-7. DEST_LOCK コマンド

機能 DEST_LOCK を選択すると以下のような設定画面となります。



・色:

・弱点灯時の明るさ:

・強点灯時の明るさ:

BUS コマンド参照してください。

・サブコマンド:

サブコマンド	機能
DEST_LOCK_ALL	全ての CP(コントロールパネル)、Web/RS-232C からのクロスポイント切替を禁止。
DEST_LOCK_OTHER	DEST_LOCK_OTHER を行った CP のみクロスポイント切替を許可。 それ以外の CP、Web/RS-232C からのクロスポイント切替を禁止。
DEST_LOCK_LOCAL	DEST_LOCK_LOCAL を行った CP のみ、クロスポイント切替を禁止。 LOCK 状態は個々の CP に保存され、ルーターに LOCK コマンドは送信しません。

コントロールパネルのボタン割当に対する LED 点灯は以下ようになります。

Standard32/Standard16/TT8 は LCD 上に LOCK 状態を表示できないため、LOCK を実行した CP 以外は ALL/OTHER を設定した場合、ALL ボタン、OTHER ボタンいずれかがアサインされている場合点灯します。LOCK を実行した CP は、機能自体が割り付けられているため、ALL の場合は ALL のみ、OTHER の場合は OTHER のみが点灯します。

LCD32/16/DualJog などの LCD をもつ CP の場合、LCD に LOCK 状態を表示できるため、実行した CP と同じ LED 点灯となります。

コマンド	実行した CP	ALL ボタン	OTHER ボタン	LOCAL ボタン
DEST_LOCK_ALL	○	点灯	-	-
	×	点灯	点灯	-
DEST_LOCK_OTHER	○	-	点灯	-
	×	点灯	点灯	-
DEST_LOCK_LOCAL	○	-	-	点灯
	×	-	-	-

6 - 5. コントロールパネル サルボ タブ

サルボ タブを押下すると、以下のタブが表示されます。

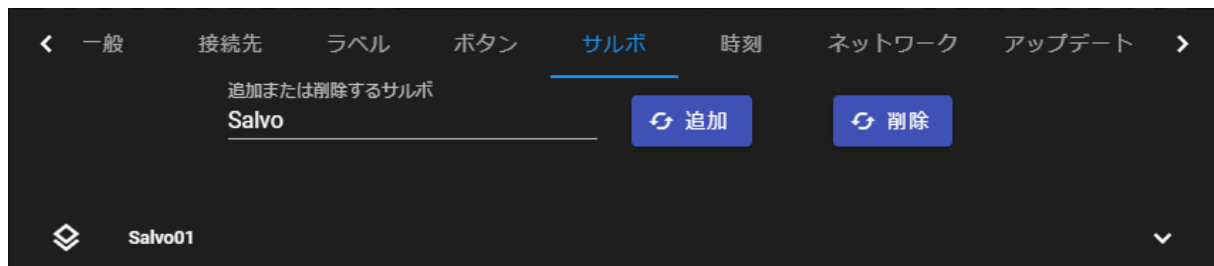


図 6-14 DualJog サルボ設定画面

新しいサルボを登録するときは追加または削除するサルボにサルボ名を入力後、追加ボタン、又は、削除ボタンを押してください。

登録されているサルボの設定変更をする場合には、サルボ名を押下してください。

サルボ名は大文字、小文字を区別します。また、コマンド発行はサルボ名を用いるため、同じサルボ名の登録はしないでください。

また、サルボ名称は半角 16 文字以内に納めるようにしてください。

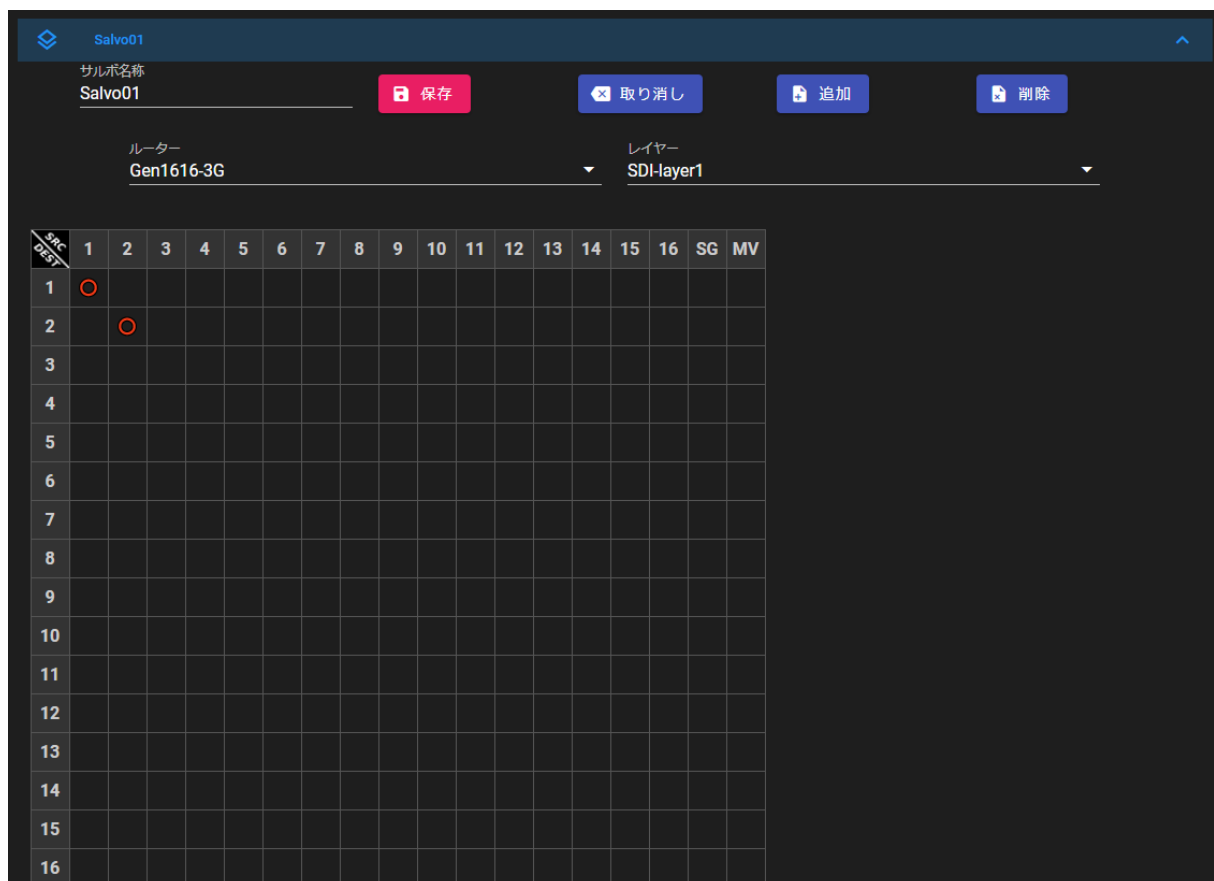


図 6-15 サルボ設定画面

同時に切り替えるクロスポイントを押下することにより、サルボ設定し、再度押下することによりサルボ設定を解除できます。

取り消しボタンを押下すると、保存前の設定状態に戻ります。

設定変更後、保存ボタンを押下することにより、ルーターに設定が保存されます。

サルボの追加ボタンを押下すると、異なるレイヤーや、異なるルーターを追加設定することができます。
削除ボタンを押下すると最後に追加したレイヤーが削除されます。

6 – 6. 時刻 タブ

ルーターの時刻タブと同様の設定ができます。

6 – 7. ネットワーク タブ

ルーターのネットワークタブと同様の設定ができます。

6 – 8. アップデート タブ

ルーターのアップデートタブと同様に、ソフトウェアの更新が可能です。

※ Standard32、Standard16、TT 8 は USB メモリを用いたアップデートのみ対応しています。

6 – 9. 製品情報 タブ

ハードウェアバージョンを除きルーターの製品情報タブと同様の項目が確認できます。

7. お問い合わせ

株式会社 コスミックエンジニアリング

Address : 〒191-0065 東京都日野市旭が丘 3-2-11

TEL: 042-586-2933 (代表)

042-586-2650 (SI 部)

FAX : 042-584-0314

URL: <https://www.cosmic-eng.co.jp/>

E-Mail: c1000@cosmic-eng.co.jp